



*Strategic
Business
Innovator*

**2009年3月期第3四半期
SBIホールディングス株式会社
決算説明会**

2009年1月29日

本資料に掲載されている事項は、SBIホールディングス株式会社によるSBIグループの業績、事業戦略等に関する情報の提供を目的としたものであり、SBIグループ各社の発行する株式その他の金融商品への投資の勧誘を目的としたものではありません。

また、当社は、本資料に含まれた情報の完全性及び事業戦略など将来にかかる部分については保証するものではありません。

なお、本資料の内容は予告なしに変更又は廃止される場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

1. 連結決算業績

2009年3月期 第3四半期 連結決算業績

(単位:百万円)

| | 2008年3月期 3Q累計連結決算 | 2009年3月期 3Q累計連結決算 | 前年同期比 増減率(%) |
|-------|----------------------|----------------------|-----------------|
| 売上高 | 170,113 | 101,172 | ▲40.5 |
| 営業利益 | 32,892 | 5,147 | ▲84.4 |
| 経常利益 | 28,000 | 1,730 | ▲93.8 |
| 税引前利益 | 30,614 | ▲10,084 | — |
| 当期純利益 | 10,523 | ▲11,847 | — |

連結決算業績のハイライト

① 最悪の市場環境の中、当3Q累計(9ヶ月)は主要事業部門はいずれも営業黒字を確保

- ・IPO件数: 前3Q累計78社→当3Q累計28社
- ・日経平均株価: 2008年3月末12,525.54円→12月末8,859.56円(29.3%下落)
- ・個人株式委託売買代金: 当3Q累計は前3Q累計から30.4%減少

※
※アセットマネジメント事業、ブローカレッジ&インベストメントバンキング事業、
ファイナンシャル・サービス事業、住宅不動産関連事業

② 10-12月期の四半期純利益の赤字計上は、 有価証券評価損等98億円の計上が大きく影響

- ・営業費用に23億円(VSN14億円等)、特別損失に59億円(住友信託銀行55億円等)の総額83億円の有価証券評価損を計上
- ・また、ゼファー社向け貸付金113億円に対応する不動産担保評価損(貸倒引当金)として特別損失15億円を計上
- ・上記は評価損であり、キャッシュの流出を伴う損失ではない

③ 引き続き財務健全性を堅持

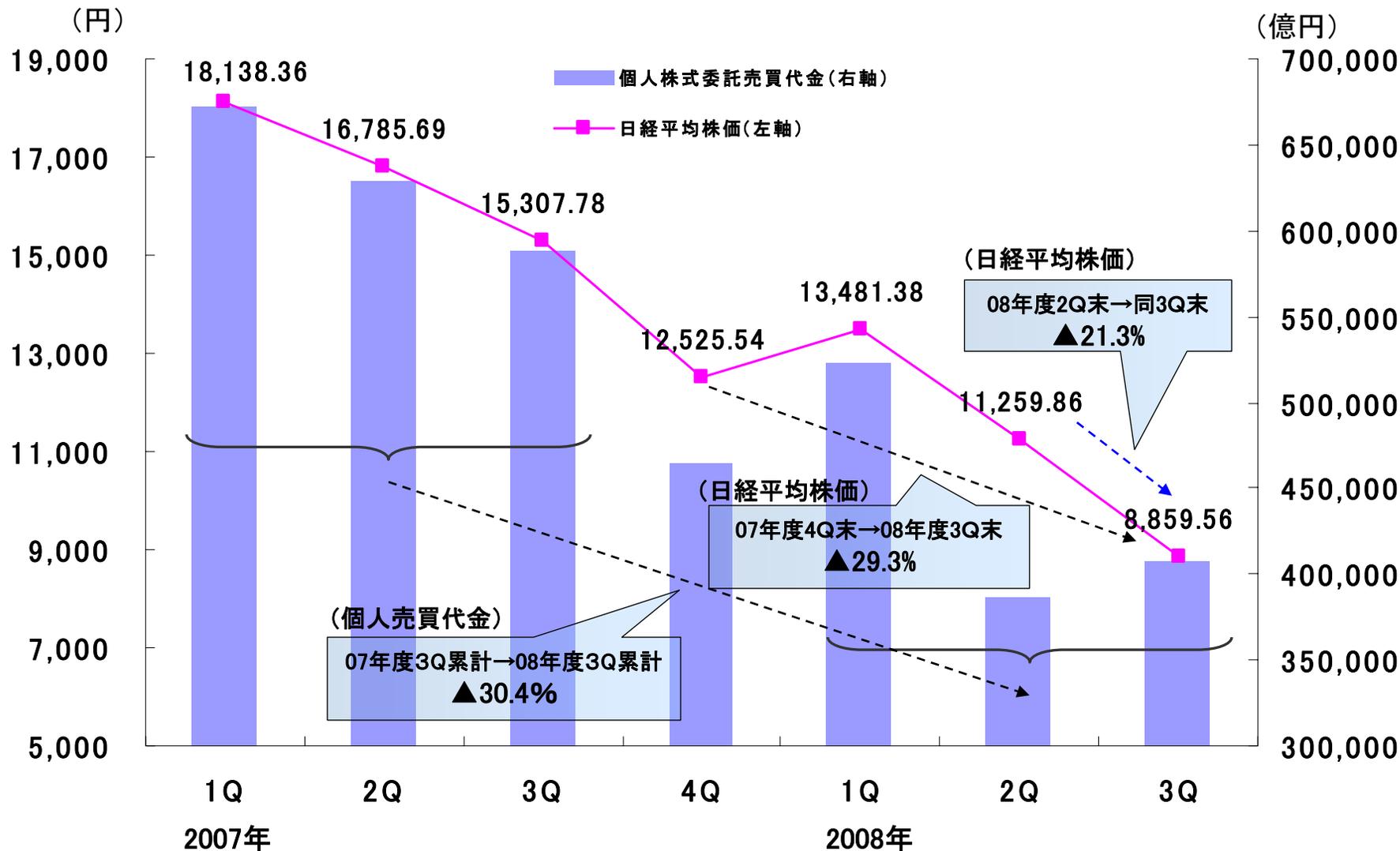
- ・現金及び現金同等物期末残高(連結キャッシュフロー計算書)は、前年同期の1,295億円から1,854億円へと増加

④ 新規事業の一部に早期黒字化のメド

- ・2008年11月17日に営業開始したSBIリクイディティ・マーケットは、はやくも今期に28億~33億円程度(販管費控除前)連結収益寄与見込み
- ・3Q末に預金量5,500億円超の住信SBIネット銀行は、来年度黒字化が視野に

連結業績に大きな影響を与えた株式市場大幅下落

期末日経平均株価と個人株式委託売買代金の四半期推移



セグメント別 営業利益の四半期推移

(単位:百万円)

| | 2009年3月期 | | | |
|-------------------------|----------------------|----------------------|------------------------|-------------------------|
| | 第1四半期 (2008年4~6月) | 第2四半期 (2008年7~9月) | 第3四半期 (2008年10~12月) | 第3四半期累計 (2008年4~12月) |
| アセットマネジメント | 331 | 2,193 | ※ ¹ ▲517 | 2,007 |
| ブローカレッジ & インベストメントバンキング | 3,389 | ※ ² 1,265 | ※ ² 233 | 4,888 |
| ファイナンシャル・サービス | 372 | 382 | 358 | 1,114 |
| 住宅不動産関連 | 850 | 498 | 103 | 1,453 |
| システムソリューション | ▲104 | ▲137 | 98 | ▲143 |

※1 VSN株式評価損14億円など、営業投資有価証券 評価損23億円を計上

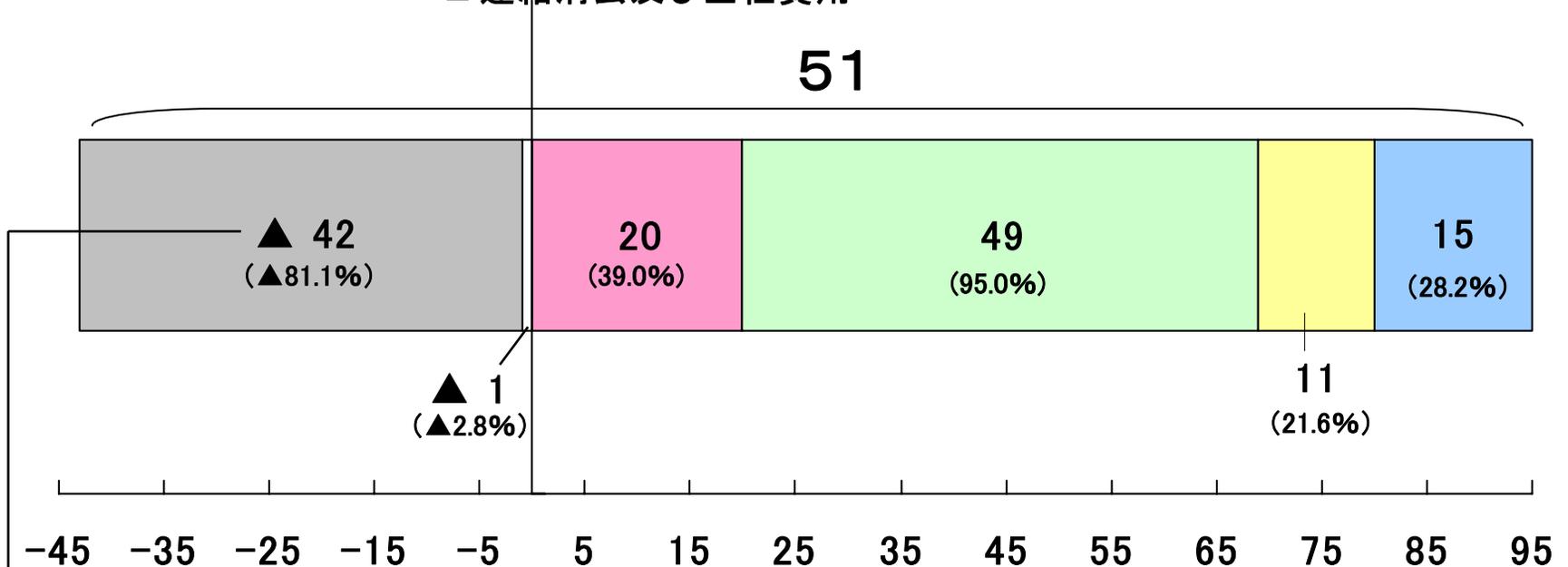
※2 SBI証券の完全子会社化に伴い新たに発生したのれんの償却が含まれます。(2Q:698百万円、3Q:1,047百万円)

営業利益の構成比較

2009年3月期
3Q累計 営業利益

- アセットマネジメント
- ブローカレッジ&インベストメントバンキング
- ファイナンシャル・サービス
- 住宅不動産関連
- システムソリューション
- 連結消去及び全社費用

(単位:億円)



※ 億円未満を四捨五入した数字です。

連結消去 9億円
全社費用33億円(人件費10.8億円、地代家賃3.6億円、ほか支払手数料等)

第3四半期(3ヶ月間)の有価証券評価損計上等について

有価証券評価損(3Q 3ヶ月間)による営業費用+特別損失合計: **8,301百万円**

●営業投資有価証券 評価損 (単位:百万円)・・・**営業費用として計上**

| | | |
|--------|-------|---|
| (株)VSN | 1,452 | SBIキャピタルが運営するSBI Value Up Fund 1号を通じて24.89%を保有(1株あたり簿価1,907円の50%となる954円を、12月末で下回ったため。なお1/27終値は1,000円) |
| その他 | 887 | フレグインターナショナル社(民事再生法申請) 359百万円、New Horizon Fund組入のシンガポール市場上場銘柄の破綻155百万円 など |
| 合計 | 2,339 | |

●投資有価証券 評価損 (単位:百万円)・・・**特別損失として計上**

| | | |
|-----------|-------|---|
| 住友信託銀行(株) | 5,539 | 共同で住信SBIネット銀行を運営する同社と、株式を相互保有 |
| その他 | 422 | SBIバイオテックの提携先ODC Therapy社 358百万円(知財獲得のために取得した株式の評価損) など |
| 合計 | 5,962 | |

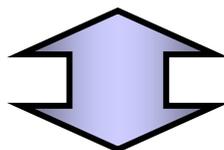
ゼファー社向け貸付金113億円に対応する不動産担保評価損

(貸倒引当金、特別損失): **1,579百万円**

今期中の社債の償還について(SBI証券)

今期中に償還を迎えるSBI証券の社債

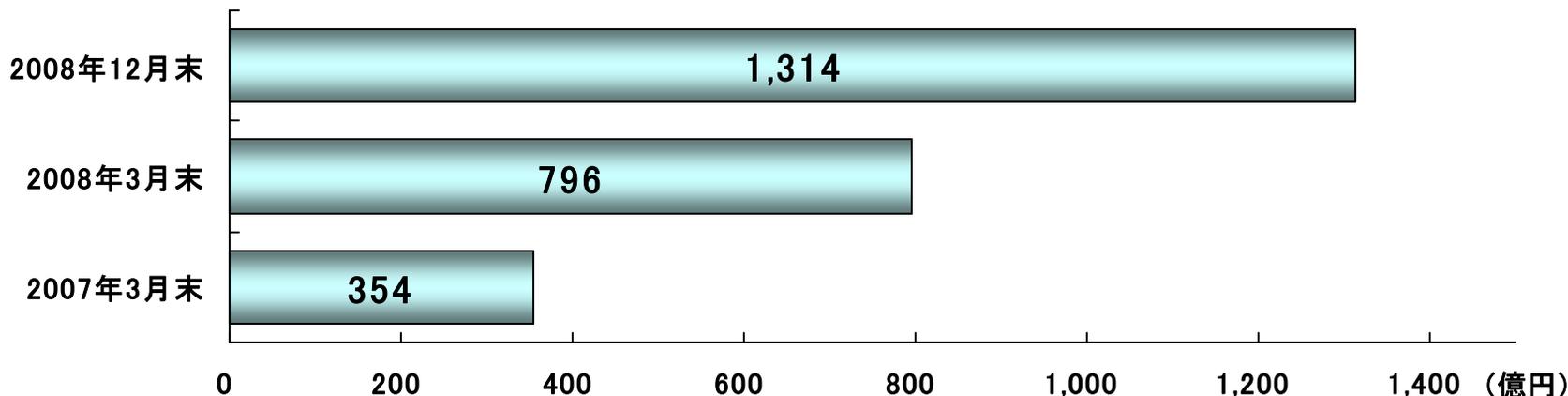
| | 金額(億円) | 償還時期 |
|---------|--------|---------|
| 無担保普通社債 | 500.0 | 2009年3月 |



SBI証券(単体:2008年12月末現在)
現預金残高※ 1,314億円

(SBIホールディングス
連結の同現預金残高※
:1,852億円)

各期末の現預金残高※推移(SBI証券単体)

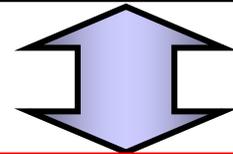


※貸借対照表上の『現金及び預金』の残高となります。

来期の社債償還について(SBIホールディングス)

来期(2010年3月期)に償還を迎えるSBIホールディングスの社債

| | 金額(億円) | 償還時期 |
|----------------------------|---------------|---------|
| 2009年満期円建転換社債型 新株予約権付社債 | 127.7 (注1) | 2009年4月 |
| 無担保普通社債 | 300.0 | 2009年9月 |
| 合計 | 427.7 | |

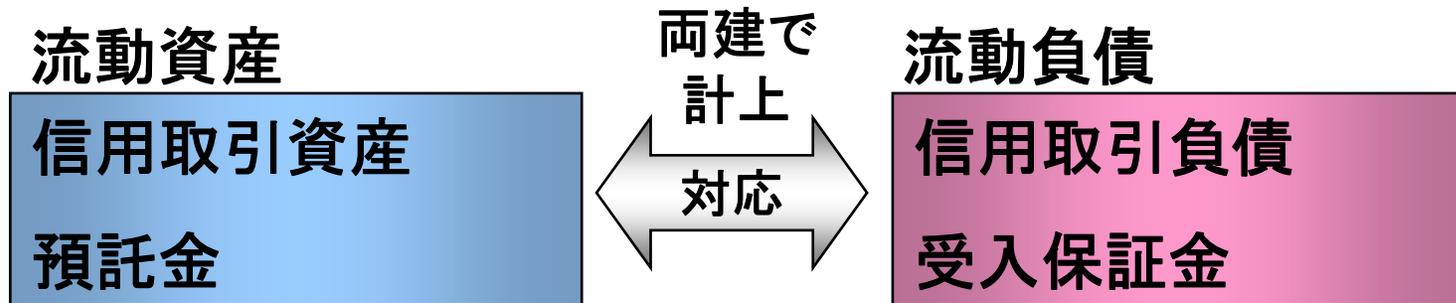


(注1)2008年12月末時点の未転換残高

資金調達手段の多様化を図り、上記社債償還等の
今後の資金需要に機動的に対応するため、
ユーロ・ミディアム・ターム・ノート(ユーロMTN)
プログラムの設定を準備中

連結貸借対照表の特徴(1)

当社の連結総資産は、子会社のSBI証券における預託金等の顧客資産勘定が含まれるため、実態より膨らんでいる



合計4,795億円 ←→ 合計3,535億円

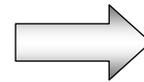
差分は主に、SBI証券の自己資金を用いた信用取引貸付であり、本来は証券金融会社等からの信用取引借入にて賄うことが可能

顧客への信用取引貸付を、全て証券金融会社からの信用取引借入にて賄う場合、流動資産(キャッシュ)が更に増加する

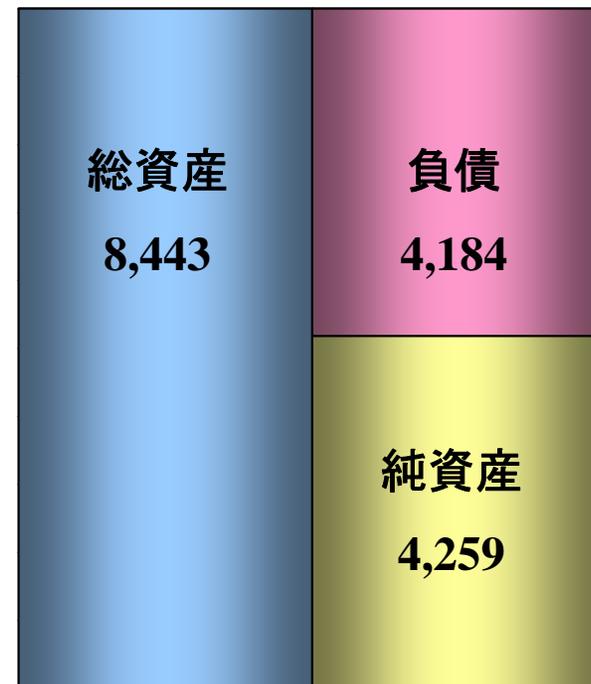
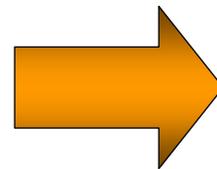
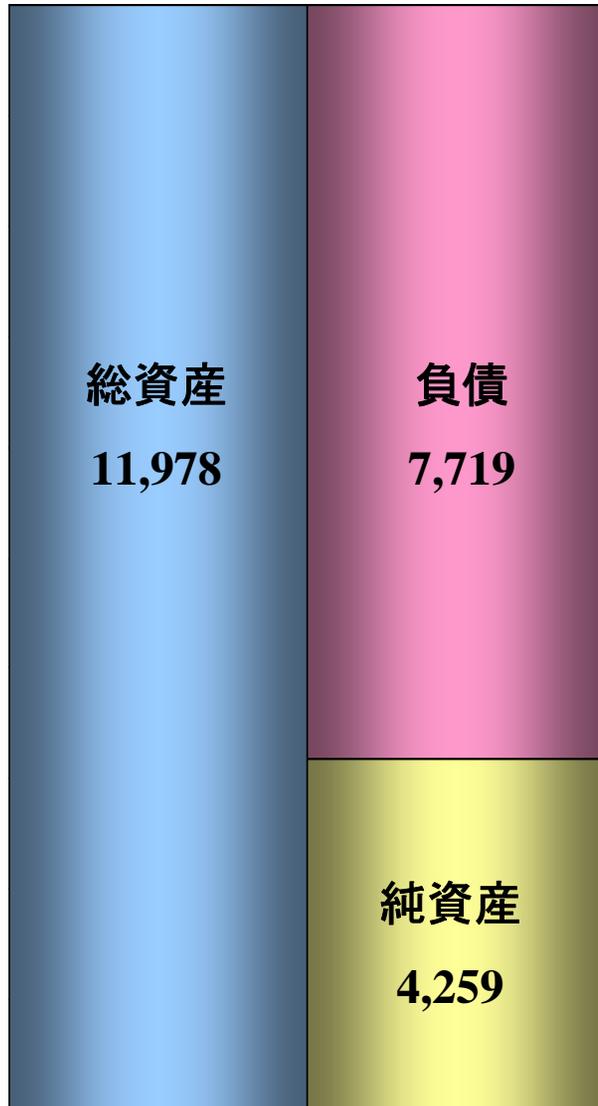
連結貸借対照表の特徴(2)

(単位:億円)

- 証券会社特有の資産・負債勘定をそれぞれ控除
- 顧客への信用取引貸付を全て証券金融会社からの信用取引借入にて賄ったとみなし、資産勘定と負債勘定の差分を流動資産として加算



負債勘定合計額相当を、流動資産、流動負債からそれぞれ控除することと一致

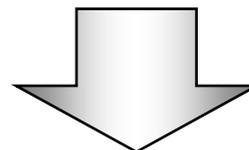


SBIホールディングスの財務安定性

SBIホールディングスの連結財務指標 (%)

| | 2008年3月期 | 2008年9月期 | 2008年12月期 |
|------------|----------|----------|-----------|
| 流動比率 ※1 | 144.4 | 135.9 | 135.8 |
| 有利子負債比率 ※2 | 101.0 | 70.1 | 64.9 |
| 自己資本比率 ※3 | 19.8 | 30.0 | 30.0 |

証券会社特有の資産・負債勘定の影響を
考慮した実質的な数値



| | 2008年3月期 | 2008年9月期 | 2008年12月期 |
|------------|----------|----------|-----------|
| 流動比率 ※1 | 201.3 | 173.3 | 170.3 |
| 有利子負債比率 ※2 | 101.0 | 70.1 | 64.9 |
| 自己資本比率 ※3 | 30.0 | 43.3 | 42.6 |

※1 流動資産÷流動負債で算出しており、150%以上※4が望ましいとされています。

※2 有利子負債÷自己資本(株主資本+評価換算差額)で算出しており、100%以下※5が望ましいとされています。
なお有利子負債には証券事業に係る信用取引負債等は含んでおりません。

※3 自己資本(株主資本+評価換算差額)÷総資産で算出しており、30~50%※4が望ましいとされています。

※4 『会社「経理・財務」入門』(金児昭著、日本経済新聞出版社)における基準

※5 『財務会計』(斎藤静樹編著、有斐閣)における基準

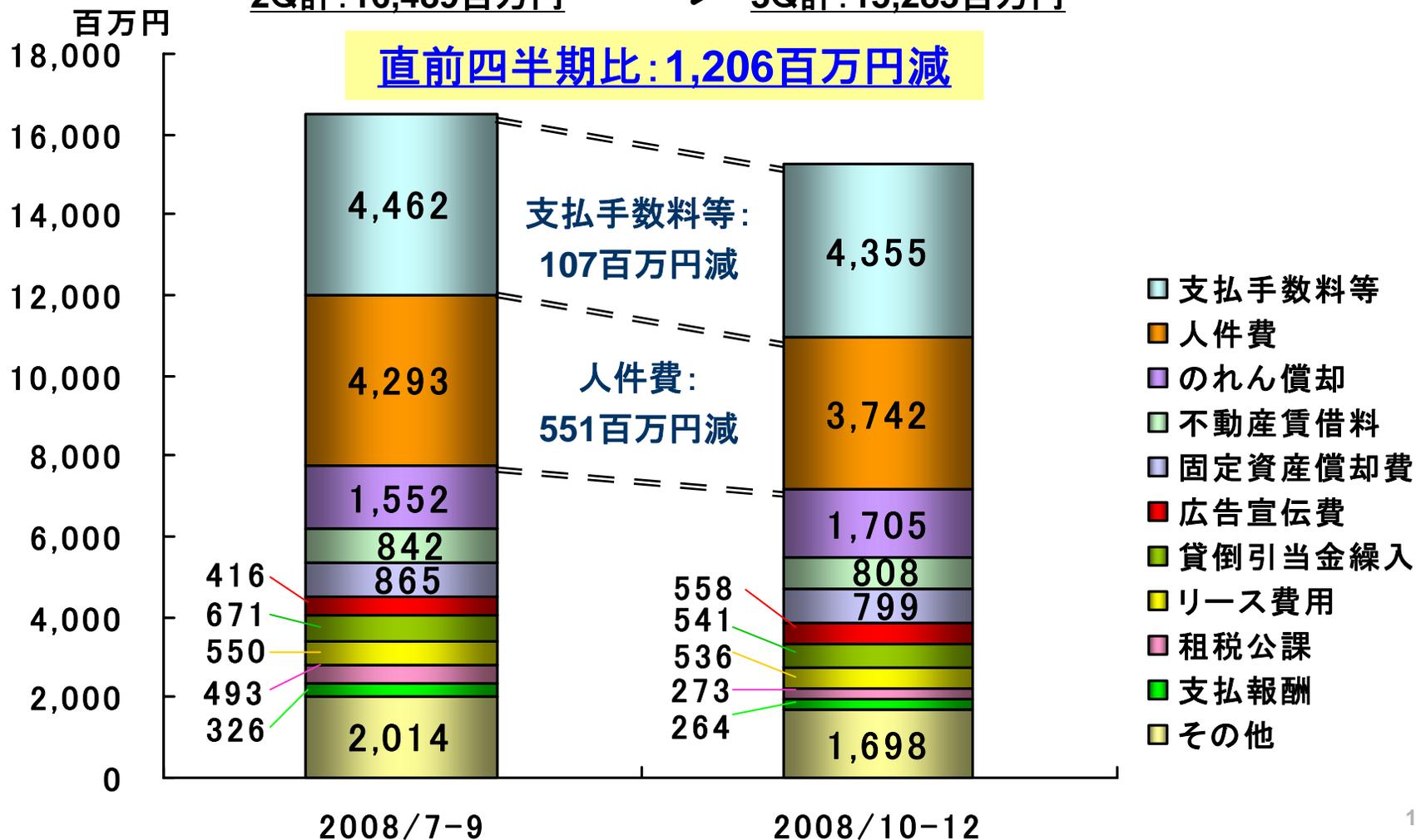
経費削減への取り組みについて

08年10月より、各社で経費削減担当者を設置し
グループをあげて経費削減運動を強化

販売費及び一般管理費・四半期比較(連結)

2Q計:16,489百万円➔ 3Q計:15,283百万円

直前四半期比:1,206百万円減



2. 主要ビジネスラインの事業概況

(1) アセットマネジメント事業

2009年3月期 第3四半期累計
売上高126億円(前年同期比73%減)
営業利益20億円(前年同期比81%減)

主な連結子会社等

- SBIインベストメント
- SBIキャピタル
- SBIキャピタルソリューションズ
- SBIアセットマネジメント

※ 上記はファンド連結後のセグメント別の数値で記載しております。

※ 連結消去および全社費用控除前の数字です。

※ 億円未満を四捨五入した数字です。

アセットマネジメント事業のハイライト

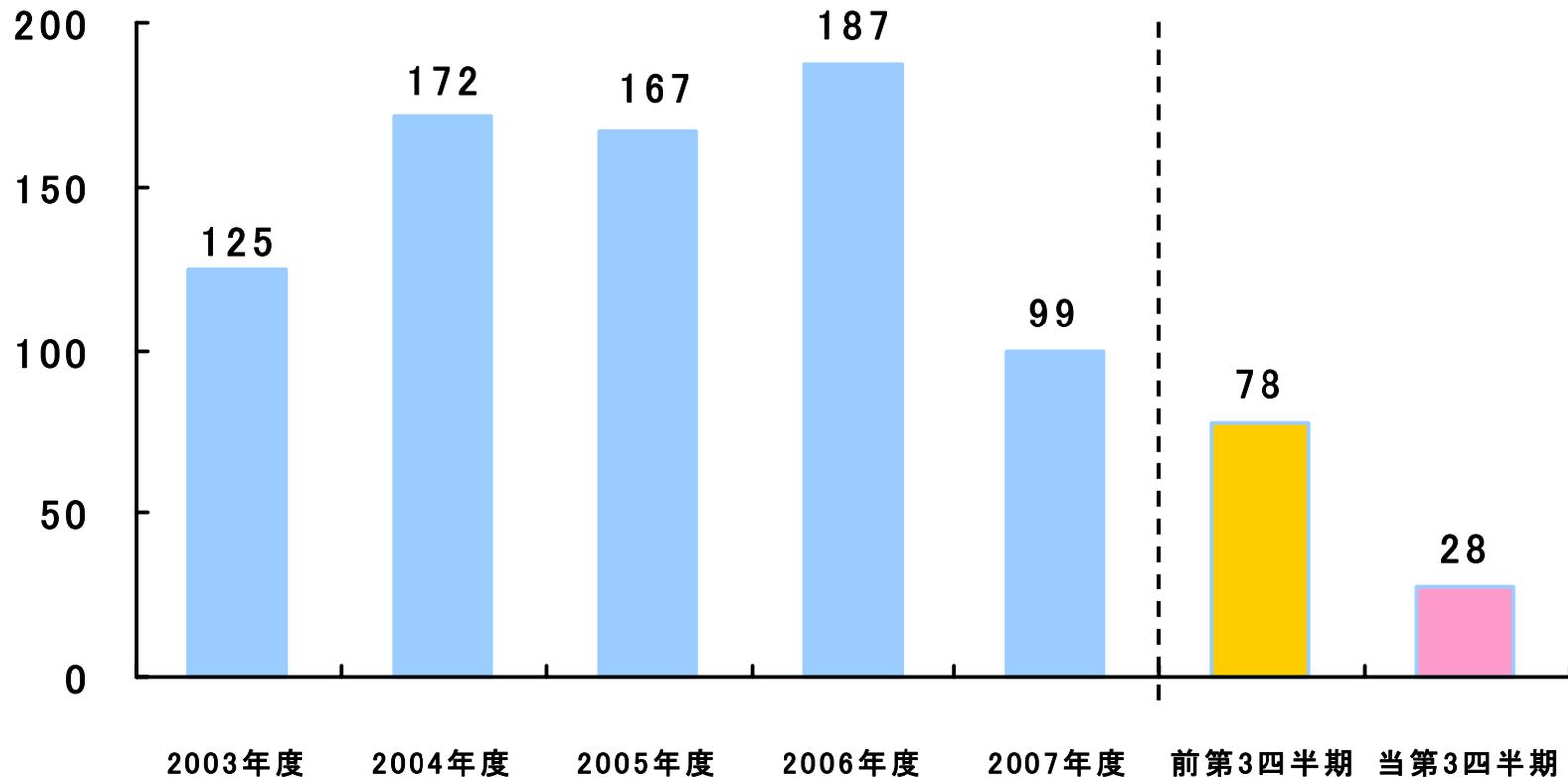
- I 株式市場の冷え込みや新規上場社数の激減など、極めて厳しい事業環境であったが、収穫期に入っているNew Horizon Fundによる33億円の営業利益貢献等により、当第3四半期累計(9ヶ月)で、**当社アセットマネジメント事業は営業黒字を維持し、同業他社比健闘。**
- II 当第3四半期(2008年10~12月)では営業赤字となっているが、SBIキャピタルが運営するSBI ValueUp Fund 1号を通じて保有しているVSN株式等の営業投資有価証券における評価損計上が発生しなければ、同期間は18億円程度の営業黒字であったと見込まれる。
- III 当第3四半期累計の**投資実行額は721億円**と高水準で推移。引き続き同業他社を大幅に上回る投資を実行。
- IV New Horizon Fundについては、今後も引き続き収益貢献が見込まれる。

国内の新規上場会社数の推移

2007年度の上場会社数は100社を下回り過去5年間で最低の上場会社数で着地。

当第3四半期は2007年度の第3四半期実績を更に大きく下回る28社のみ。

(単位:社)



出所:各取引所

主要VCとの業績比較

主要VC各社と当社アセットマネジメント事業の2008年4-12月期業績

(単位: 億円、%)

| | 売上高 | 前年同期比 増減率 | 営業利益 | 前年同期比 増減率 |
|------------------|-----|--------------|------|--------------|
| SBI アセットマネジメント事業 | 126 | ▲73.0 | 20 | ▲80.5 |
| JAFCO (※自己持ち分方式) | 180 | ▲35.5 | ▲10 | - (注2) |
| 大和SMBCキャピタル | 94 | ▲33.4 | ▲89 | - (注3) |
| 日本アジア投資 | 78 | ▲36.2 | ▲160 | - (注4) |

(データ出所: 各社開示資料より当社にて集計)

(注1) JAFCOは自己持ち分方式で開示、他3社は決算に採用しているファンド連結後の数値

(注2) 前年同期の営業利益は71億円となっております。

(注3) 前年同期の営業利益は▲60億円となっております。

(注4) 前年同期の営業利益は25億円となっております。

(注5) 億円未満を四捨五入して表示しております。

IPO/M&A実績

| | 事業開始から 2007年3月期まで | 2008年3月期 | 2009年3月期 見通し |
|-----------|----------------------|----------|-----------------|
| IPO・M&A社数 | 99 | 12 | 2 |

審査の厳格化、長期化の流れの中でも上場予備軍は着実に準備を整えつつあるが、市場の冷え込みで申請待ちの状況。

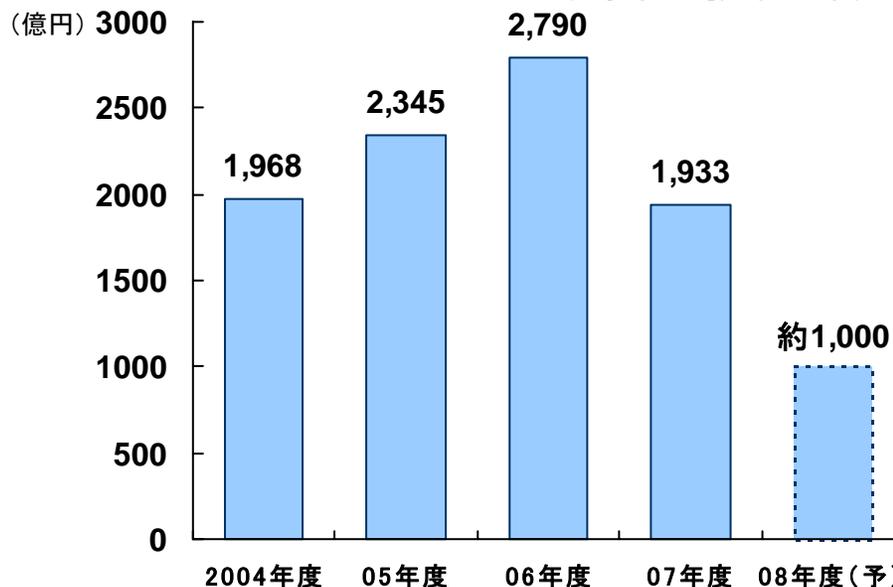
※ IPO予定件数は、毎週開催しております「案件会議」での検討に基づき、投資先5段階評価において最上位に区分されたものが含まれておりますが、これら投資先の評価およびIPO予定の見通しは当社独自判断に基づいたものであり、今後のIPOを保証するものではありません。尚、過去実績のIPO・M&A社数はすでに売却済みのものを含みます。

IPOの落ち込みによりVC各社は慎重姿勢に

国内主要VC90社による新規投資額は48%減少の見通し

～国内主要90のVCの08年度新規投資額（見通し）の合計は1千億円。07年度比48%減で、ピークだった06年度の三分の一にとどまる。～

ベンチャーキャピタルの年度別投資額の推移



記事

2009年3月期 第3四半期の投資実行額

単位:百万円
(投資会社数)

| | 投資実行額 | | | |
|---------------------|------------------|-------------------|------------------|-------------------|
| | 当3Q (10月～12月) | 当3Q累計 (4月～12月) | (参考) 前3Q累計 | (参考) 前通期累計 |
| 【ファンドによる投資分】 | 19,253 (39社) | 59,307 (81社) | 66,672 (132社) | 96,596 (175社) |
| 内 株式等 | 5,550 (17社) | 17,053 (41社) | 29,351 (77社) | 40,444 (104社) |
| 内 その他 (社債等) | 13,702 (22社) | 42,254 (40社) | 37,321 (55社) | 56,151 (71社) |
| 【直接投資分】 | 2,138 (4社) | 12,801 (13社) | 3,556 (29社) | 4,444 (33社) |
| 内 株式等 | 641 (3社) | 11,224 (11社) | 3,556 (29社) | 4,444 (33社) |
| 内 その他 (社債等) | 1,497 (1社) | 1,577 (2社) | — | — |
| 【 合 計 】 | 21,392 (43社) | 72,109 (94社) | 70,228 (161社) | 101,041 (208社) |
| 【比較:JAFCO】 | 5,110 (18社) | 28,137 (82社) | 34,635 (141社) | 39,094 (168社) |

注) 1社に対し各第1、第2、第3四半期にわたって複数回投資実行した場合は、累計において1社とカウントし重複を排除しています。

(データ出所:各社開示資料より当社にて集計)

New Horizon Fund の運用状況

05年5月の運用開始から、投資先10社のうちこれまでに6社が上場。一部売却等により、08年度1-3Qにおいて**33億円**の営業利益を計上（設立から08年度3Qまでの累計では**64億円**）。08年度4Qの分配金見積額（※1）の内26億円が2月中に入金される予定。

（単位：百万USDドル）

| 投資先名 | 投資残高 | 種類 | IPO/M&A 予定 | キャピタルゲイン | | |
|---|-------------|-------|---------------|--------------|--------------|--------------|
| | | | | 前期末 | 2008年 9月末 | 1月27日 現在 |
| Sichuan Meifeng Chemical Industry | 14.8 | A株 | | 63.7 | 16.3 | 27.1 |
| Changsha Zoomlion Heavy Industry Science & Technology Development | 7.7 | A株 | | 144.6 | 87.8 | 60.5 |
| China Printing & Dyeing Holding | - | IPO | | 0.2 | -1.9 | ※2 - |
| Yingli Green Energy Holding | - | IPO | | 4.5 | - | - |
| Kingsoft | 9.3 | IPO | | 2.3 | -0.5 | 2.0 |
| Goldwind Science and Technology | 2.2 | IPO | | 124.9 | 50.5 | 42.5 |
| China Stem Cells Holdings | 4.1 | プレIPO | 2009 | 17.6 | 17.6 | 17.6 |
| Jiangsu Ealong Biotech | 2.5 | プレM&A | 2010 | 5.6 | 5.6 | 5.6 |
| Shineway Group | 20.4 | プレIPO | 2010 | 15.0 | 15.0 | 15.0 |
| Cathay Industrial Biotech | 12.0 | プレIPO | 2011 | 79.1 | 79.1 | 79.1 |
| 合計 | 73.0 | | | 457.5 | 269.3 | 249.4 |

IPO済
時価評価

IPO/M&A
未済
予想評価

(約458億円) (約279億円) (約223億円)

【受領分配金額】

➡ 【08年度4Q以降の見積額】(2009年1月27日現在の見込)

| 設立～2007年度 | 2008年度1-3Q | 2008年度4Q | 2009年度 | 2010年度 | 2011年度 | 08年度4Q以降 の総分配見積額 |
|-----------|------------|----------|--------|--------|--------|---------------------|
| 9億円 | 38億円 | 48億円 | 44億円 | 27億円 | 37億円 | 156億円 |

注1: 分配金の受領は、ロックアップの外れる09年以降本格化する見込みです。

注2: 分配金見積額は、現在及び将来上場もしくは売却する株式の予想時価から見積もった金額で、これらの金額が確定しているわけではありません。

※1 売却額より売却に付随する費用を差し引いた額

※2 シンガポール証券取引所が「取引売買停止」を発表

グループ運用資産総額の状況

2008年12月末現在4,991億円(住宅不動産関連セグメント等を含む)

プライベート・エクイティ 2,444 億円

〔IT・バイオ等〕 合計 1,209

インターネット 67

ブロードバンド・メディア 582

モバイル 277

バイオ・その他 283

〔直接投資〕 263

〔環境・エネルギー〕 68

〔バイアウト・メザニン〕 合計353

バリュアアップ 192

メザニン 161

〔海外〕 合計 551

中国・香港・その他※ 358

ベトナム※ 102

インド※ 91

〔投資信託等〕 1,987億円

投資信託 339

投資顧問 1,625

投資法人 24

〔不動産等〕 560億円

開発物件 237

稼働物件 323

不動産は投資総額、投資信託・投資顧問等は2008年12月末の時価純資産、その他ファンドは2008年12月時点の各ファンドの直近決算に基づく時価純資産で記載。億円未満は四捨五入。

※決算期を迎えていないものについては、出資約束金額ベースで算出。

(2) 証券関連事業

2009年3月期 第3四半期累計
売上高 379億円(前年同期比 29%減)
営業利益 49億円(同 71%減)

主な連結子会社等

- SBI証券
- SBIフューチャーズ
- SBIジャパンネクスト証券(持分法適用)
- SBIリクイディティ・マーケット

SBI証券完全子会社化に伴い、新たに発生したのれんの償却によるマイナスは17億円。同償却を考慮しない場合は営業利益66億円(前年同期比60%減)

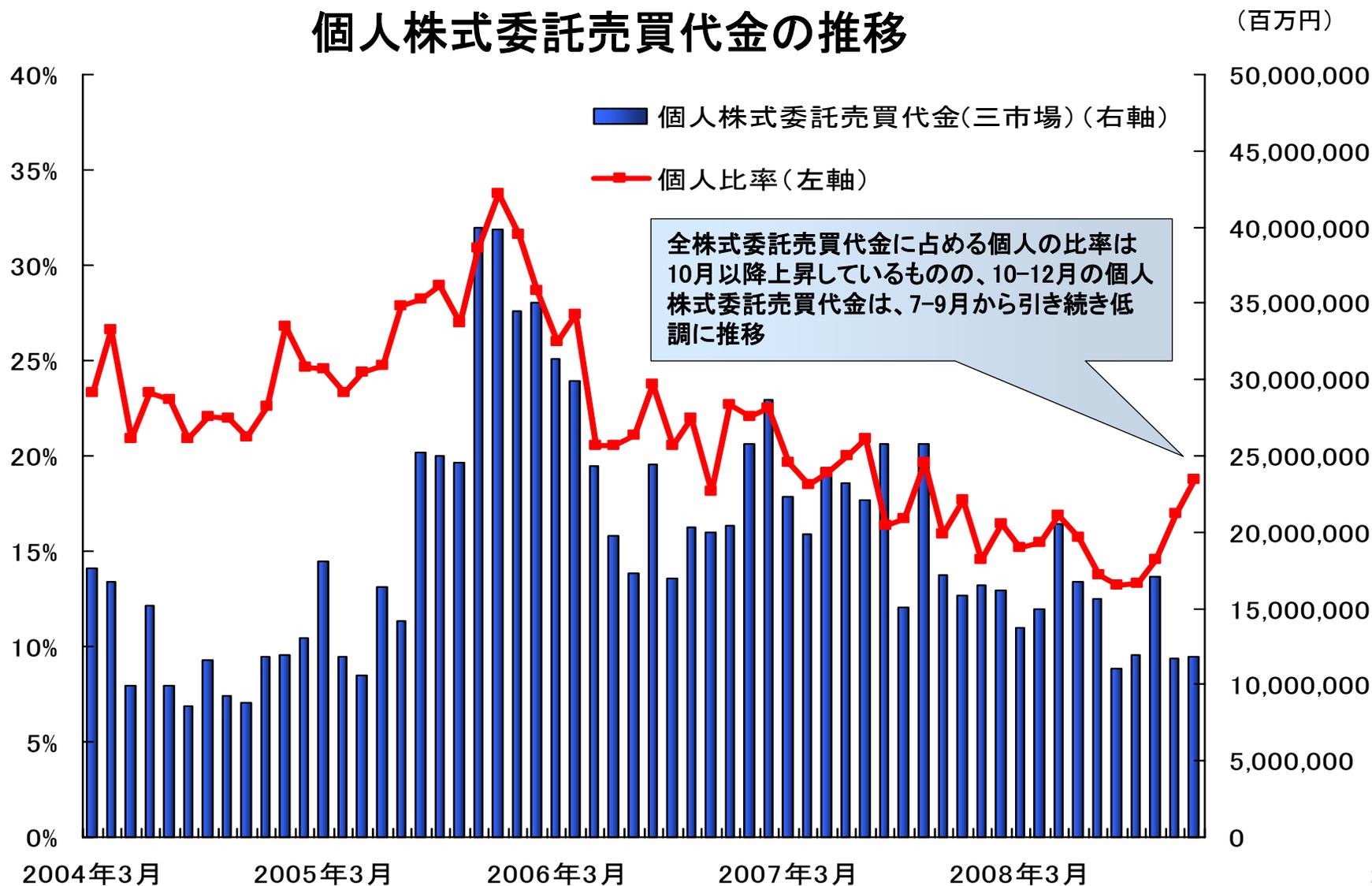
※ 上記はファンド連結後のセグメント別の数値で記載しております。

※ 連結消去および全社費用控除前の数字です。

※ 億円未満を四捨五入した数字です。

引き続き低迷する個人株式委託売買代金

個人株式委託売買代金の推移



圧倒的顧客基盤を背景にシェアを拡大し続けるSBI証券

日本の個人株式委託売買代金が前年同期比30%減少するなど、証券市場全体の低迷による委託手数料の減少が影響し、営業収益は前年同期比25%減の372億円、営業利益は前年同期比57%減の80億円となった。

なお2009年3月期第3四半期(2008年10~12月)に、特別損失として商号変更費用約3.7億円、システム統合費用約4.6億円を計上。

① 口座数は引き続き同業他社を大きく上回る

- 2008年12月末総口座数 181万口座
- 2009年3月期第3四半期(2008年10月~12月)の獲得口座数は81,435口座となり、2007年3月期第1四半期(2006年4月~6月)以来の高水準

② 前年同期比で上昇を続ける売買代金シェア

- 2009年3月期第3四半期累計の個人株式委託売買代金シェアは前年同期より2.9ポイント上昇し38.0%、個人信用取引委託売買代金シェアは前年同期より4.4ポイント上昇し44.0%となる

③ 引き続き収益源の多様化を進め、収益の安定化を図る

- FX取引は、正規手数料の無料化およびスプレッドの大幅縮小(2008年7月1日~)ならびにSBIリクイディティ・マーケットを活用した『SBI FX α』の提供(2008年11月17日~)により大幅に拡大。
2008年12月の月間売買代金は、2008年6月の約11倍となる4兆6,678億円。
- 2009年3月期第3四半期において、SBIリクイディティ・マーケットによるSBI証券への収益貢献は3.4億円。通期では18~21億円程度が見込まれる。

PTS運営会社SBIジャパンネクスト証券が昼間取引を開始

2009年3月期第3四半期 SBI証券連結業績

(単位:百万円、%)

| | 2008年3月期 第3四半期 (2007年4月～2007年12月) | 2009年3月期 第3四半期 (2008年4月～2008年12月) | 前年同期比 増減率 |
|--------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------|
| 営業収益 | 49,784 | 37,226 | ▲25.2 |
| 純営業収益 | 44,924 | 33,156 | ▲26.2 |
| 営業利益 | 18,624 | 8,017 | ▲57.0 |
| 経常利益 | 18,460 | 8,008 | ▲56.6 |
| 四半期純利益 | 11,537 | 9,337 | ▲19.1 |

SBI証券の証券業界におけるポジショニング(1)

(口座数、収益・2009年3月期第3四半期累計連結業績)



口座数ランキング

単位:口座

| | | |
|----|------------|------------------|
| 1 | 野村 ※1 | 4,442,000 |
| 2 | 大和 | 3,222,000 |
| 3 | 日興 ※2 | 2,440,000 |
| 4 | SBI | 1,817,024 |
| 5 | 三菱UFJ ※3 | 1,207,000 |
| 6 | 新光 | 1,048,000 |
| 7 | マネックス | 891,257 |
| 8 | 楽天 | 810,527 |
| 9 | 松井 | 767,339 |
| 10 | カブドットコム | 657,374 |

(出所:主要証券各社開示資料より当社にて把握しうる限りの情報を基に作成)

※1 残有口座数

※2 日興は日興コーディアル証券と日興シティ証券の合算ベース。
口座数は日興コーディアル証券のみ。

※3 2007年6月末時点

※4 収益合計(米国会計基準)

※5 単独

営業収益ランキング

単位:百万円

| | | |
|----|------------|---------------|
| 1 | 野村 ※4 | 518,318 |
| 2 | 三菱UFJ | 373,209 |
| 3 | 大和 | 335,500 |
| 4 | みずほ | 254,147 |
| 5 | 日興 ※2 | 190,351 |
| 6 | 新光 | 85,081 |
| 7 | 岡三 | 42,671 |
| 8 | SBI | 37,226 |
| 9 | 東海東京 | 33,853 |
| 10 | SMBCフレンド | 33,581 |
| 11 | みずほインベ | 28,495 |
| 12 | 松井 | 21,403 |
| 13 | マネックス | 19,884 |
| 14 | 楽天 | 18,134 |
| 15 | カブドットコム ※5 | 13,240 |
| 16 | いちよし | 11,490 |
| 17 | コスモ | 11,390 |
| 18 | 東洋 | 9,605 |

(連結、十万円以下は切り捨て)(出所:主要証券各社開示資料より当社集計)

SBI証券の証券業界におけるポジショニング(2)



(利益・2009年3月期第3四半期累計連結業績)

営業利益ランキング

単位:百万円

| | | |
|----|------------|--------------|
| 1 | 松井 | 8,595 |
| 2 | SBI | 8,017 |
| 3 | カブドットコム ※1 | 5,028 |
| 4 | マネックス | 4,813 |
| 5 | 楽天 | 3,470 |
| 6 | SMBCフレンド | 2,543 |
| 7 | 日興 ※2 | 131 |
| 8 | 東海東京 | ▲ 758 |
| 9 | 岡三 | ▲ 1,067 |
| 10 | 東洋 | ▲ 1,648 |
| 11 | いちよし | ▲ 1,886 |
| 12 | コスモ | ▲ 5,524 |
| 13 | みずほ | ▲ 8,354 |
| 14 | 新光 | ▲ 9,669 |
| 15 | みずほインベ | ▲ 10,576 |
| 16 | 三菱UFJ | ▲ 27,308 |
| 17 | 大和 | ▲ 115,805 |
| 18 | 野村 ※3 | ▲ 553,147 |

当期利益ランキング

単位:百万円

| | | |
|----|------------|--------------|
| 1 | SBI | 9,337 |
| 2 | 松井 | 5,184 |
| 3 | カブドットコム ※1 | 3,115 |
| 4 | 東海東京 | 2,852 |
| 5 | SMBCフレンド | 2,196 |
| 6 | マネックス | 687 |
| 7 | 岡三 | ▲ 1,049 |
| 8 | 東洋 | ▲ 1,564 |
| 9 | いちよし | ▲ 3,238 |
| 10 | コスモ | ▲ 3,984 |
| 11 | 楽天 | ▲ 4,197 |
| 12 | 新光 | ▲ 6,396 |
| 13 | 三菱UFJ | ▲ 13,487 |
| 14 | 日興 ※2 | ▲ 15,370 |
| 15 | みずほ | ▲ 16,172 |
| 16 | みずほインベ | ▲ 22,728 |
| 17 | 大和 | ▲ 67,676 |
| 18 | 野村 ※3 | ▲ 492,358 |

(出所:主要証券各社開示資料より当社集計)
(連結、十万円以下は切り捨て)

※1 単体 ※2 日興は日興コーディアル証券と日興シティ証券の合算ベース 30
※3 野村は米国会計基準。営業利益には税引き前利益を使用

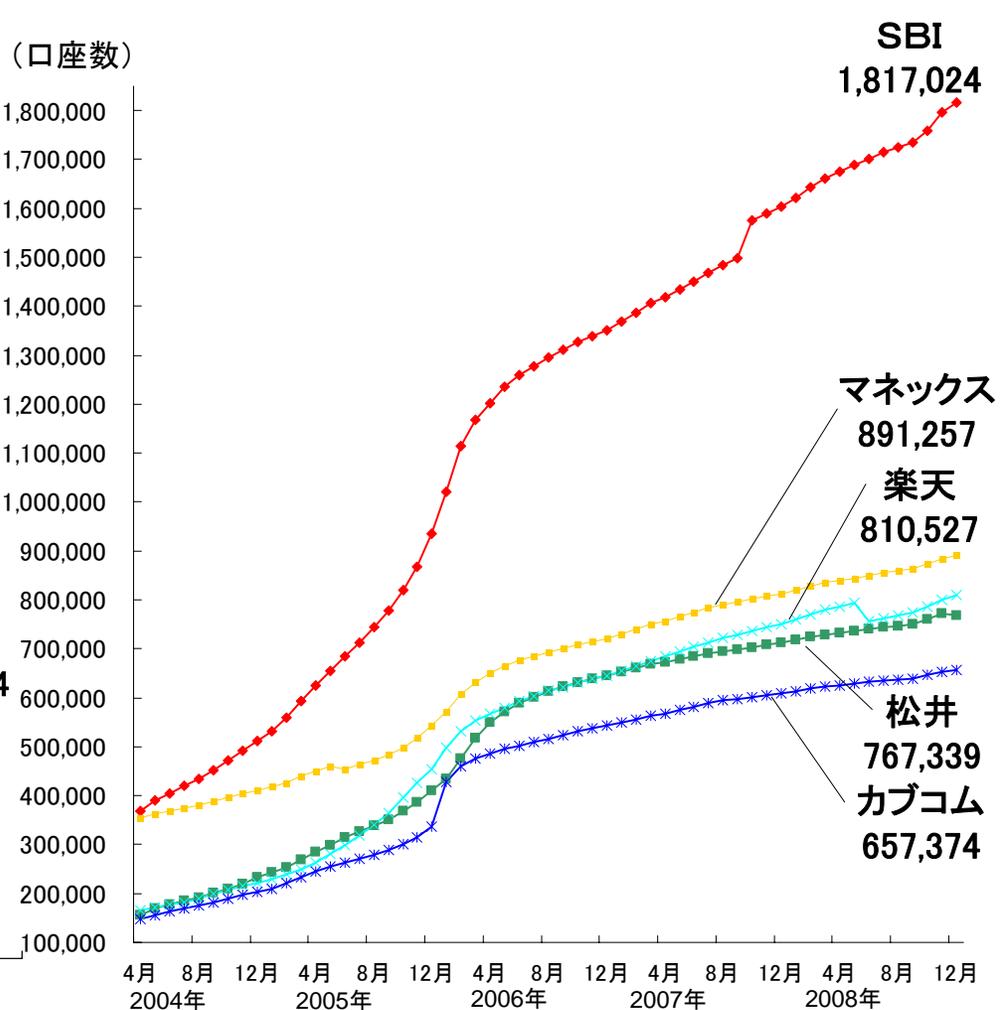
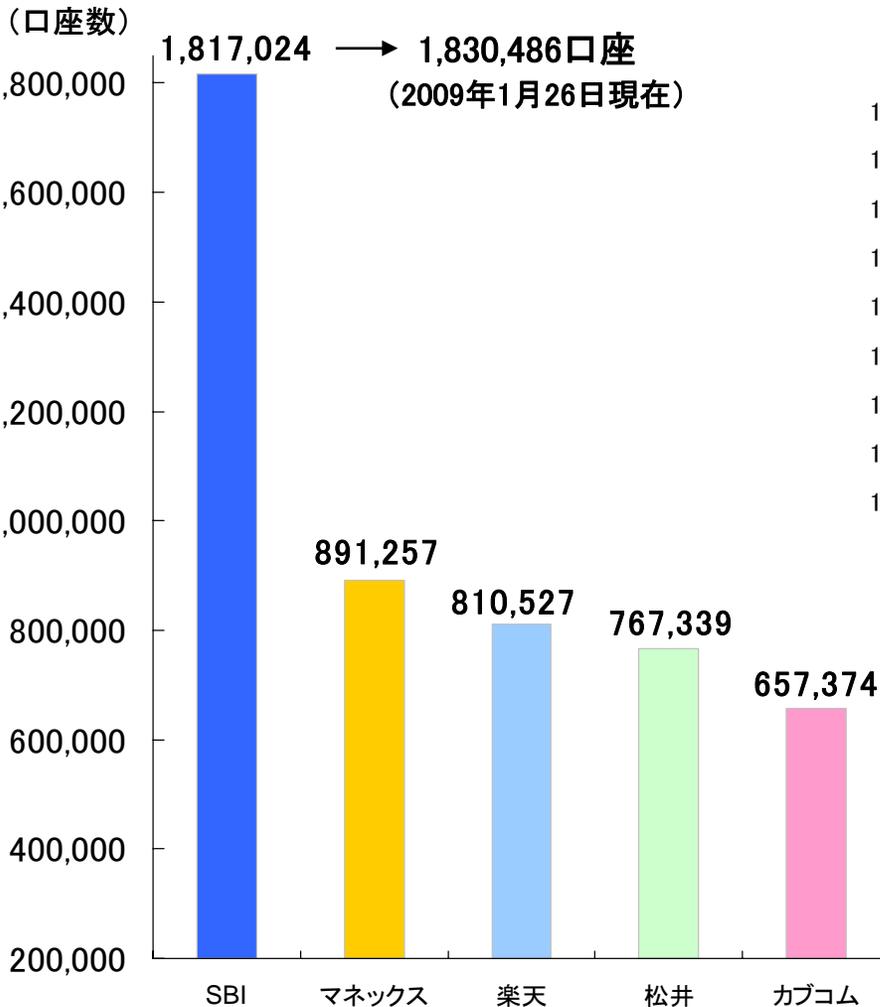
主要オンライン証券の口座数比較

主要オンライン証券5社の口座数

(2008年12月末現在)

主要オンライン証券5社の口座数推移

(2004年4月から2008年12月まで)

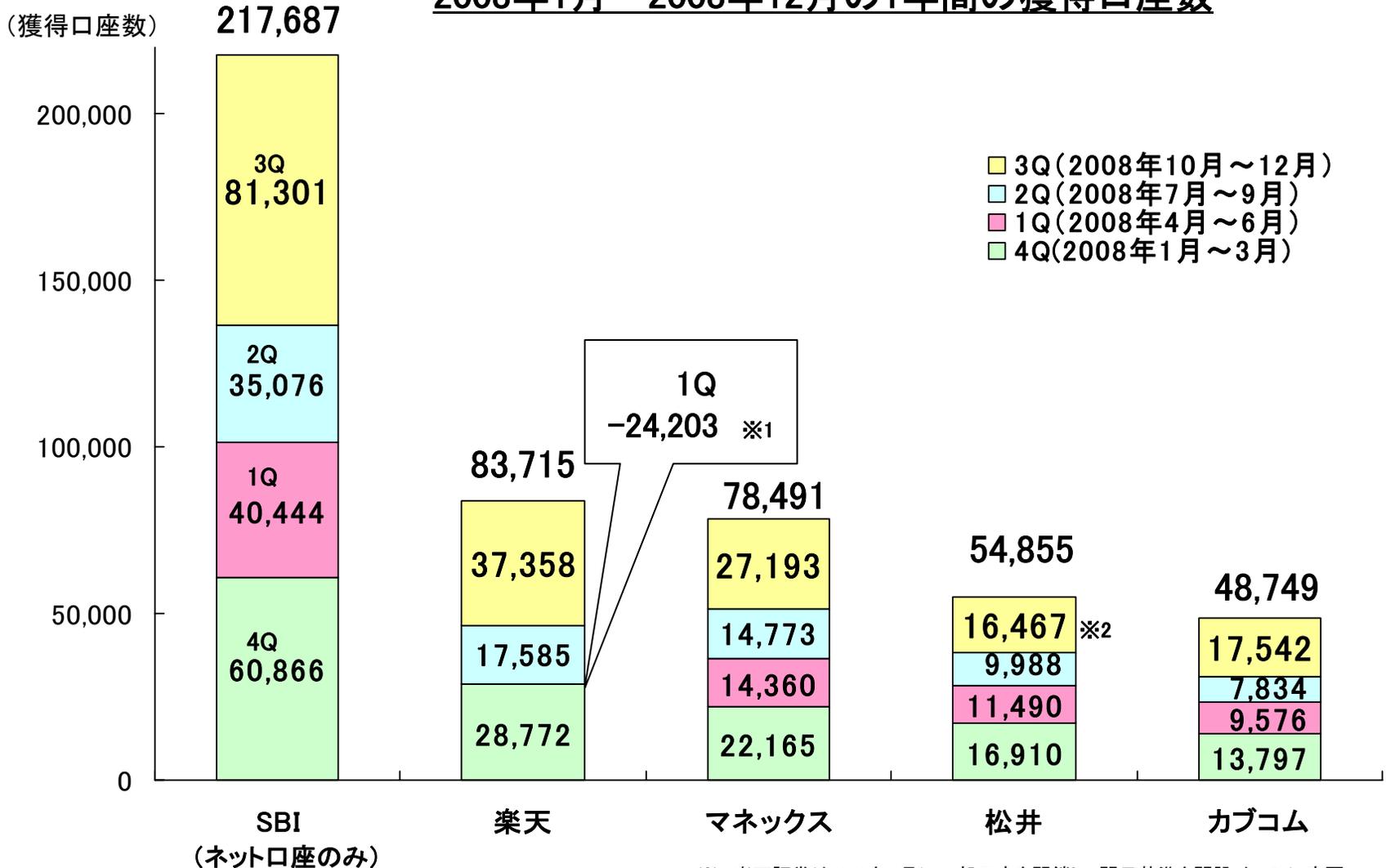


出所: 各社ホームページ等公表資料より当社にて集計

※ 1. マネックス証券、日興ビーンズ証券はマネックスとして合算。 2. カブドットコム証券は2006年1月1日にMeネット証券と合併
 3. (株)SBI証券(旧SBIイー・トレード証券)は2007年10月1日にSBI証券(株)と合併
 4. 楽天証券は2008年6月に一部不稼動口座の閉鎖を実施 5. 松井証券は2008年12月に一部不稼動口座の閉鎖を実施

主要オンライン証券の獲得口座数比較

2008年1月～2008年12月の1年間の獲得口座数



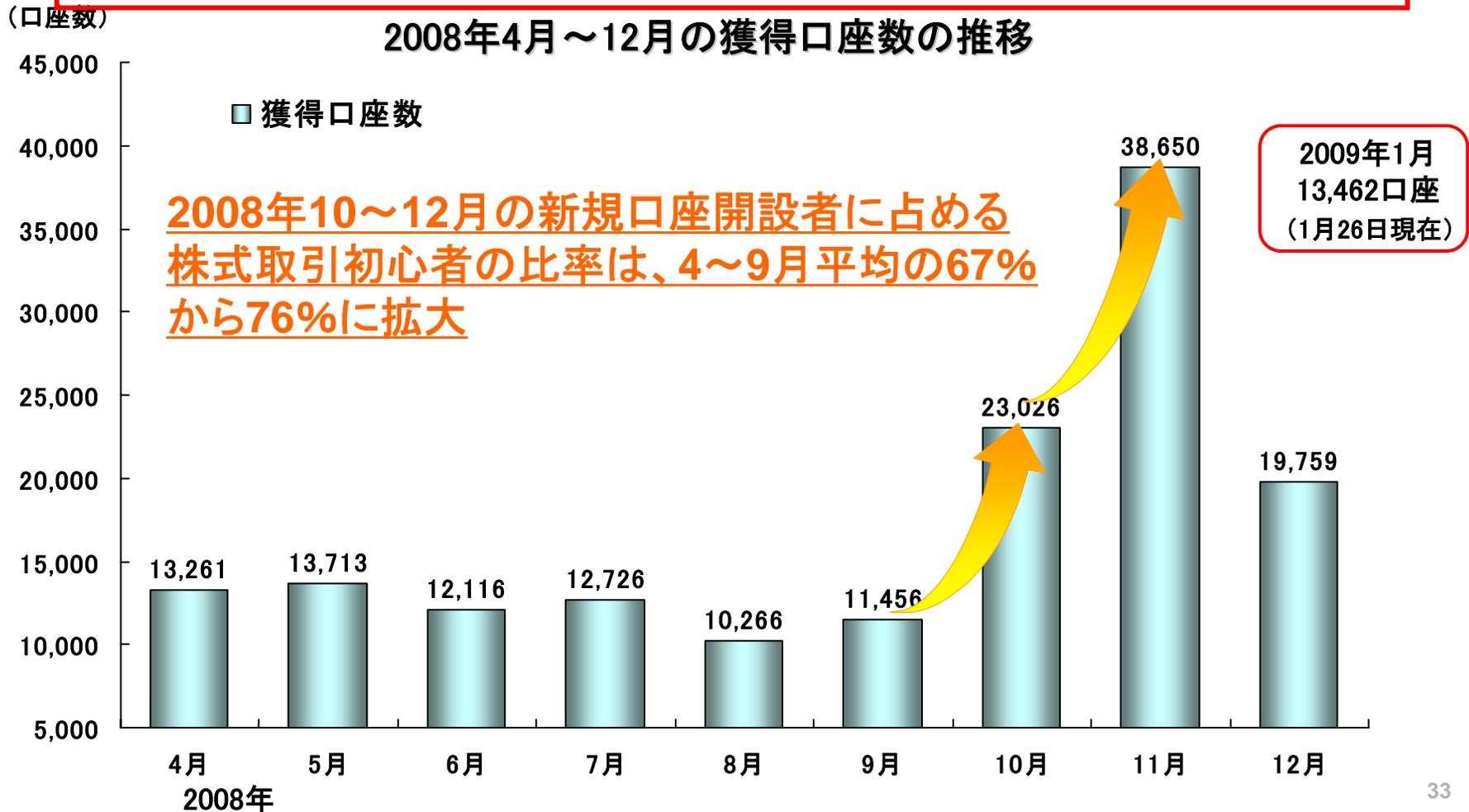
※1 楽天証券は2008年6月に一部口座を閉鎖し、開示基準を開設ベースに変更

※2 松井証券は2008年12月に一部不稼働口座(11,140口座)の閉鎖を実施

SBI証券における顧客基盤が急拡大

低迷する株式相場を投資の好機と捉えた口座開設が10、11月に急増
また株式取引初心者による口座開設が増加しており、投資家の裾野も拡大

**SBI証券(単体)の当期第3四半期(2008年10~12月)の委託手数料は、
同第2四半期(2008年7~9月)に比べ8.3%増加**

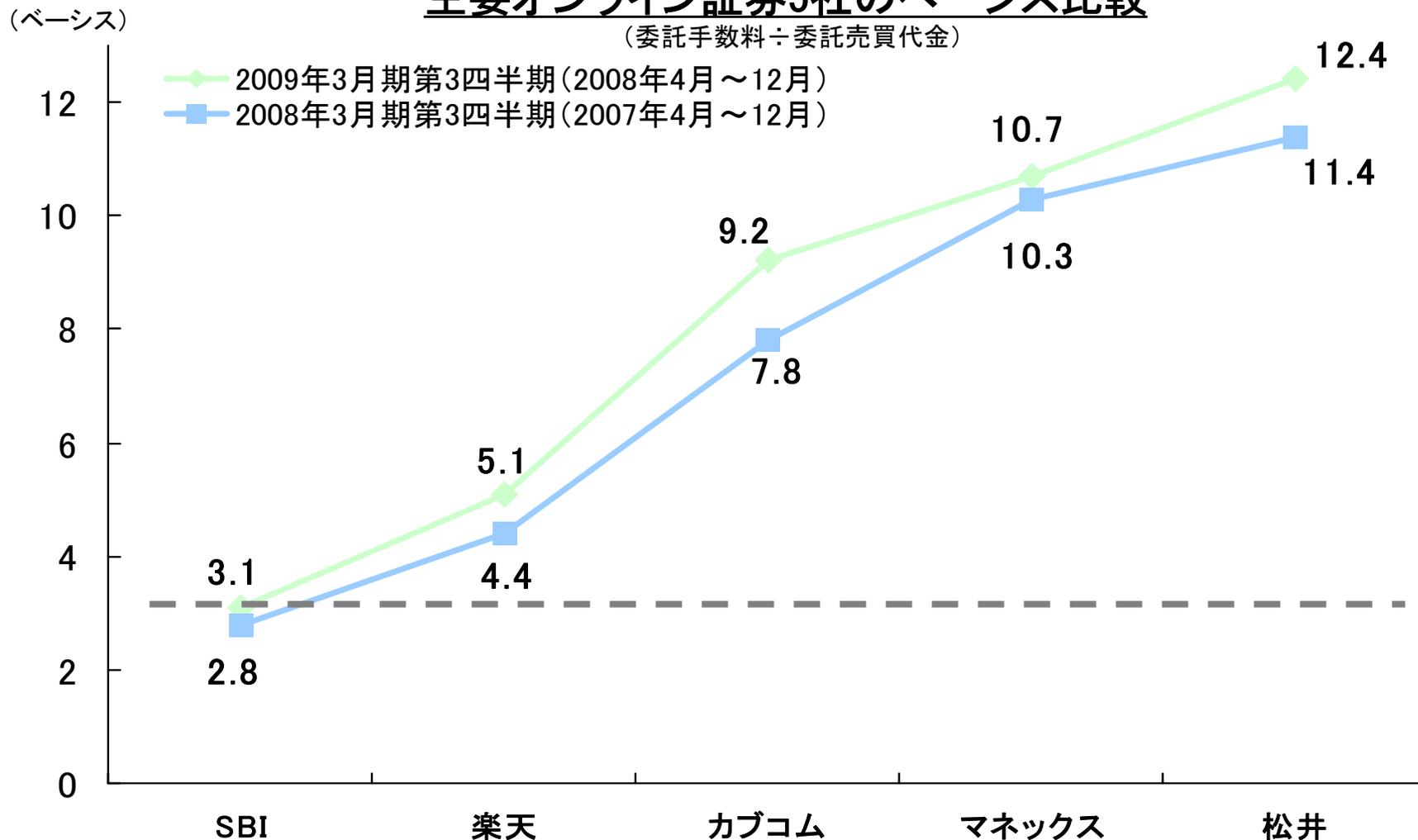


主要オンライン証券のベースス比較

手数料体系に変更はないものの、1約定あたり売買代金の低下に伴いベーススが上昇

主要オンライン証券5社のベースス比較

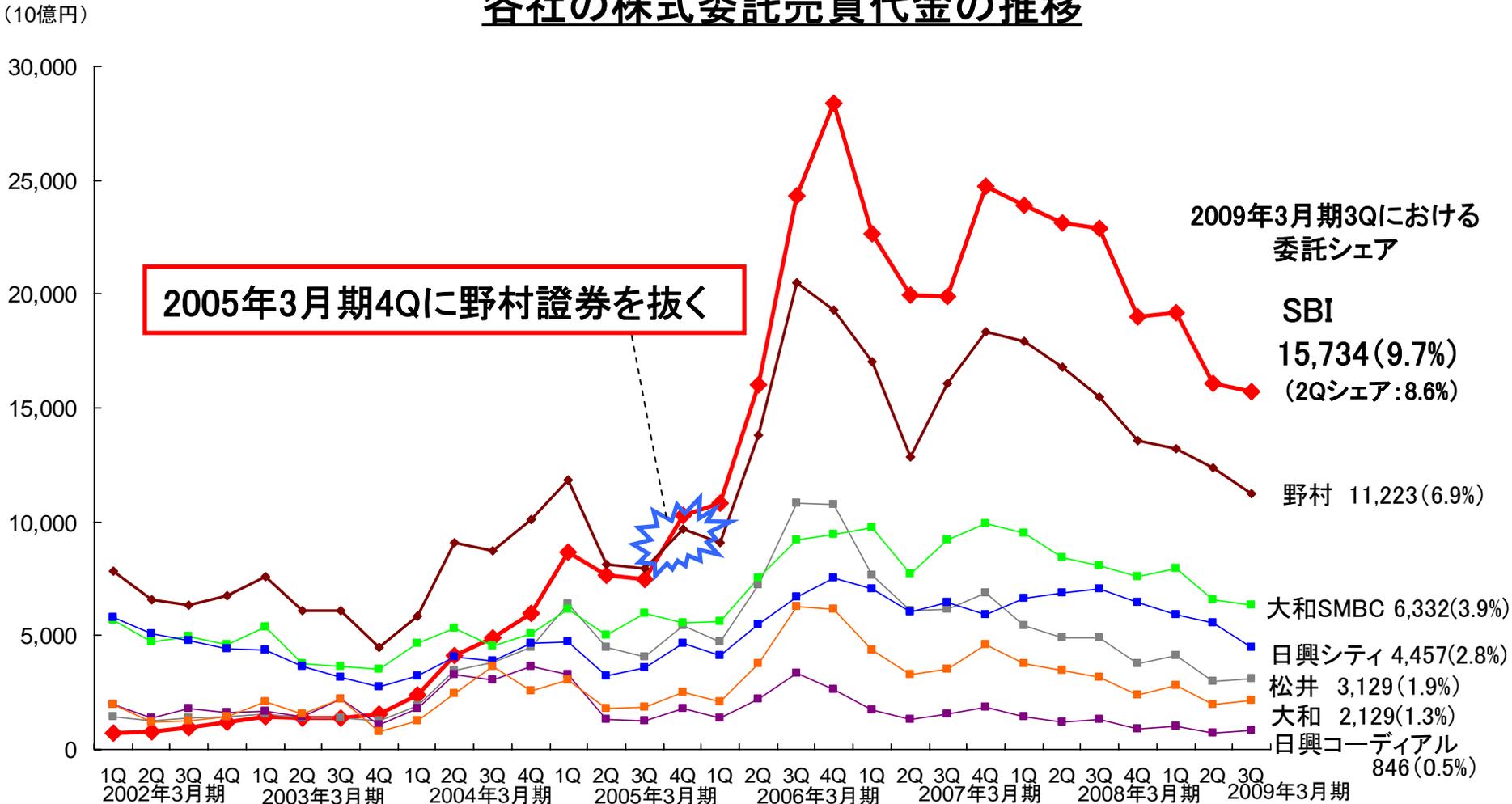
(委託手数料÷委託売買代金)



出所: 各社決算資料、月次開示資料等より当社作成
委託手数料は決算短信より単体数値を使用
SBI証券はインターネット部門のみの数値を使用

3大証券会社との株式委託売買代金比較

各社の株式委託売買代金の推移



出所: 証券会社各社・東証の公表数値をもとに当社作成 (SBI証券分には海外投資家からの注文を含みます)

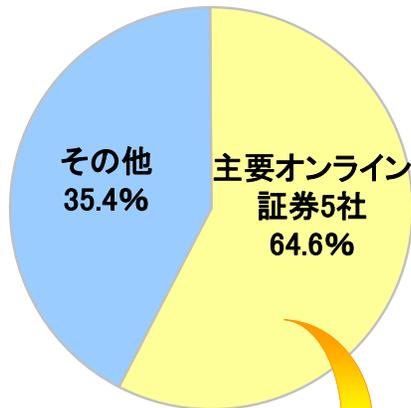
(単位: 10億円、括弧内各社委託売買代金を3市場委託で除したシェア)

主要オンライン証券の個人株式委託売買代金シェア

～市場が低迷する中、順調にシェアを拡大し、主要ネット証券他社を圧倒～

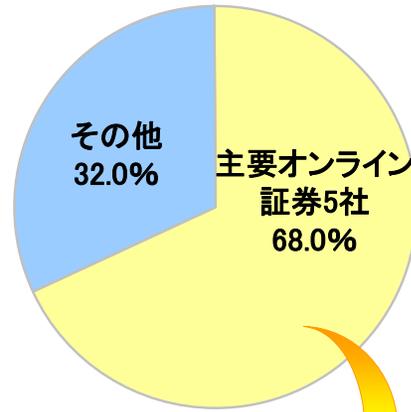
個人株式委託売買代金シェアの推移

2007年3月期 第3四半期
(2006年4月～2006年12月)



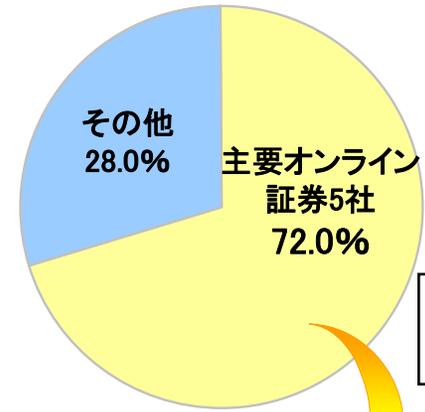
| | |
|---------|-------|
| SBI証券 | 29.2% |
| 楽天証券 | 13.6 |
| 松井証券 | 9.5 |
| マネックス | 6.4 |
| カブドットコム | 6.0 |

2008年3月期 第3四半期
(2007年4月～2007年12月)



| | |
|---------|-------|
| SBI証券 | 35.1% |
| 楽天証券 | 13.3 |
| 松井証券 | 7.8 |
| マネックス | 6.1 |
| カブドットコム | 5.8 |

2009年3月期 第3四半期
(2008年4月～2008年12月)



| | |
|---------|-------|
| SBI証券 | 38.0% |
| 楽天証券 | 14.2 |
| 松井証券 | 7.6 |
| マネックス | 6.4 |
| カブドットコム | 5.7 |

2008年12月単月
40.3%

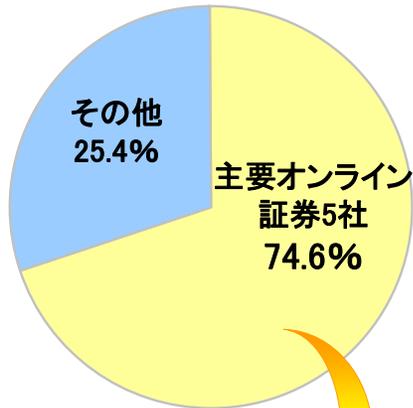
出所：東証統計資料、JASDAQ統計資料、各社ホームページ等公表資料より当社にて集計
※ 個人株式委託売買代金は3市場(1・2部)とJASDAQを合算

SBI証券はインターネット取引のみで算出

主要オンライン証券の個人信用取引委託売買代金シェア

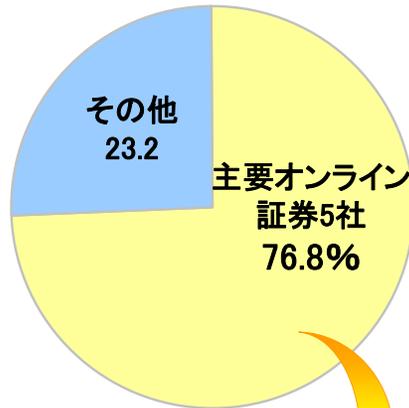
個人信用取引委託売買代金シェアの推移

2007年3月期第3四半期
(2006年4月～2006年12月)



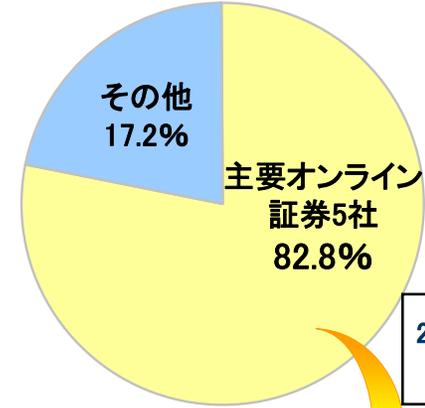
| | |
|---------|-------|
| SBI証券 | 34.4% |
| 楽天証券 | 14.8 |
| 松井証券 | 12.1 |
| カブドットコム | 7.2 |
| マネックス | 6.1 |

2008年3月期第3四半期
(2007年4月～2007年12月)



| | |
|---------|-------|
| SBI証券 | 39.6% |
| 楽天証券 | 15.4 |
| 松井証券 | 9.1 |
| カブドットコム | 6.6 |
| マネックス | 6.1 |

2009年3月期 第3四半期
(2008年4月～2008年12月)



| | |
|---------|-------|
| SBI証券 | 44.0% |
| 楽天証券 | 17.0 |
| 松井証券 | 8.5 |
| カブドットコム | 6.7 |
| マネックス | 6.6 |

2008年12月単月
46.8%

出所：東証統計資料、JASDAQ統計資料、各社ホームページ等公表資料より当社にて集計
個人信用取引委託売買代金は3市場(1・2部)とJASDAQを合算

SBI証券はインターネット取引のみで算出

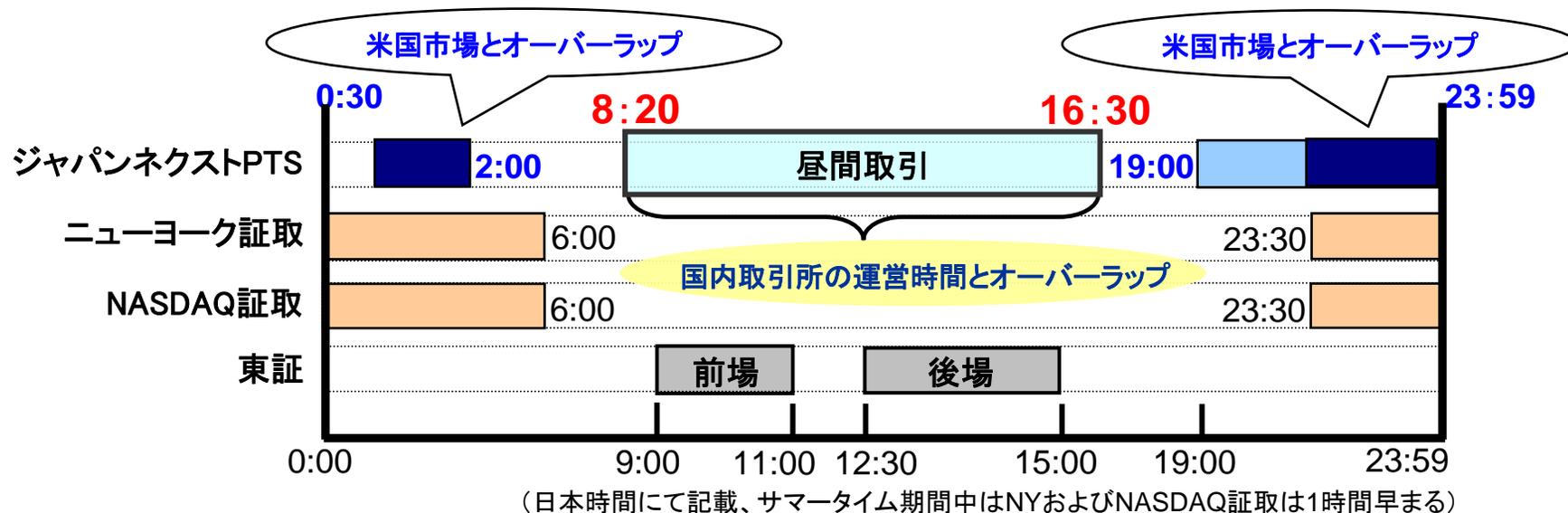
【SBIジャパンネクスト証券】

(2007年8月27日営業開始)

～第3四半期より昼間取引を開始～

昼間取引を開始(午前8:20～午後4:30)

～10月28日よりテスト的な取引を開始、本格的な取引体制に移行中～



昼間取引・接続証券会社

- ゴールドマン・サックス証券
- メリルリンチ日本証券
- クレディ・スイス証券
- UBS証券 など主要外資系証券5社

SBI証券が12月24日から取引参加

他の主要外資系証券数社も参加予定

※それぞれ自社のシステムの状況や運用体制についての最終確認をしながら順次取引を開始

日本最大規模の私設取引市場に

第3四半期における一日平均売買代金は
対前四半期比156%増の約23億円に

PTS各社の月間売買代金比較(08年)

(単位:百万円)

| 運営会社 | 取引開始時期 | 10月 | 11月 | | | 12月 | | |
|--------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | 昼間 | 夜間 | 合計 | 昼間 | 夜間 | 合計 |
| SBI ジャパンネクスト | 07年8月 | 38,503 | 32,397 | 23,201 | 55,599 | 27,532 | 17,871 | 45,404 |
| kabu.com | 06年9月 | 36,572 | 12,188 | 467 | 12,655 | 10,119 | 333 | 10,452 |
| マネックス | 01年1月 | 4,250 | — | 2,984 | 2,984 | — | 2,023 | 2,023 |
| 大和 | 08年8月 | 1,706 | — | 986 | 986 | — | 828 | 828 |
| 松井 | 08年5月 | 181 | 17 | — | 17 | 20 | — | 20 |

11/25には1日当たり
の売買代金が
95億円を突破

月次での過去
最高記録を更新

(※)10月売買代金は2008年11月18日付日刊工業新聞記事より抜粋

11月及び12月の売買代金は各社HP、日本証券業協会HP、日経QUICKより当社にて集計
なお上記は当社独自に集計したものであり、各社の今後の公表数値とは異なる場合があります
シングルカウントとなっており、売りと買いの合計ではありません

顧客利便性の向上へ向けて

◆呼値の刻み:

昼間取引における「呼値の刻み」は、**東証の10分の1以下**
 (夜間は東証と対応)



**取引所の最良気配よりも有利な値段で取引
 できる機会の提供**

| 値段の水準 | | 呼値の刻み | | |
|--------------|---------------|-----------------|-------------|----------|
| | | ジャパンネクストPTS(昼間) | kabu.comPTS | 東証 |
| 1円以上 | 2,000円以下 | 0.1円 | 1円 | 1円 |
| 2,000円超 | 3,000円以下 | 0.5円 | 1円 | 5円 |
| 3,000円超 | 30,000円以下 | 1円 | 1円 | 10円 |
| 30,000円超 | 50,000円以下 | 5円 | 10円 | 50円 |
| 50,000円超 | 300,000円以下 | 10円 | 10円 | 100円 |
| 300,000円超 | 3,000,000円以下 | 100円 | 100円 | 1,000円 |
| 3,000,000円超 | 20,000,000円以下 | 100円 | 1,000円 | 10,000円 |
| 20,000,000円超 | 30,000,000円以下 | 100円 | 1,000円 | 50,000円 |
| 30,000,000円超 | | 100円 | 10,000円 | 100,000円 |

◆**特定の執行条件を付した多様な注文形態にも対応**
 (夜間は指値注文のみ)

(3) ファイナンシャル・サービス事業

2009年3月期 第3四半期累計

売上高 167億円(前年同期比 4%増)

営業利益 11億円(同 27%増)

内 既存事業

売上高 166億円(前年同期比 4%増)

営業利益 21億円(同 8%減)

内 新規事業

売上高 7億円(前年同期比 214%増)

営業利益 ▲10億円(前年同期比ー)

主な内訳:

カード(▲3億円)
 カードプロセッシング(▲5億円)
 ネット生保(▲2億円)

主な連結子会社等

- SBIホールディングス(事業部)
- モーニングスター
- ゴメス・コンサルティング
- SBIベリトランス
- 住信SBIネット銀行(持分法適用)
- SBI損害保険
- SBIアクサ生命保険
- SBIカード
- SBIカードプロセッシング

※ 上記はファンド連結後のセグメント別の数値で記載しております。

※ 連結消去および全社費用控除前の数字です。

※ 億円未満を四捨五入した数字です。

ファイナンシャル・サービス事業のハイライト



既存事業の営業利益は前年同期比8%減となるが、新規事業の赤字が前年同期比4億円縮小したことにより、事業部門営業利益は27%増の11億円となる

【既存事業】

- ① モーニングスターの第3四半期業績は、前年同期間と比較して連結では子会社ゴメスの不調等により減収減益となったものの、単体では売上高が前年同期間比で127.7%増の1,851百万円、四半期純利益が同34.1%増の229百万円となり、単体では大幅な増収増益に
- ② ゴメス・コンサルティングの第3四半期業績は、金融機関向け売上高の低迷を背景に、当初計画を下回る水準で推移
- ③ SBIベリトランスの第3四半期業績は、EC市場の拡大等を背景に、売上高・営業利益・経常利益・四半期純利益の全項目において、連結・単体共に前年同期比20%超を達成
- ④ マーケットプレイス事業の売上高は前年同期比で14.4%増の3,243百万円

【新規事業】

- ① 07年9月開業の住信SBIネット銀行は、預金残高5,519億円、口座数は33万口座超(2008年12月末)と、順調に進捗
- ② 08年1月開業のSBI損保は、保険料引き下げやサイトリニューアルが奏功して成約件数が伸長。08年4月開業のSBIアクサ生保は、募集代理店での商品販売などを通じて新規契約件数の獲得を図る

上場子会社 各社業績

(単位:百万円、()内は前年同期比増減率%)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 四半期 純利益 |
|--|------------------|----------------|----------------|----------------|
| ※1 | | | | |
| ※2 モーニングスター 2009年3月期 第3四半期累計 | 2,212 (-) | 280 (-) | 340 (-) | 217 (-) |
| ※2 ゴメス・ コンサルティング 2009年3月期 第3四半期累計 | 301 (-) | ▲41 (-) | ▲35 (-) | ▲21 (-) |
| SBIベリトランス 2009年3月期 第3四半期累計 | 3,264 (+26.3) | 679 (+23.6) | 688 (+23.8) | 406 (+24.0) |

※1 モーニングスター、SBIベリトランスは連結業績、ゴメス・コンサルティングは単体の業績を掲載しております。

※2 モーニングスター、ゴメス・コンサルティングにつきましては、前事業年度は決算期変更に伴い、2007年1月1日から2008年3月31日までの15ヶ月間となっております。このため、前年同期比増減率は記載しておりません。

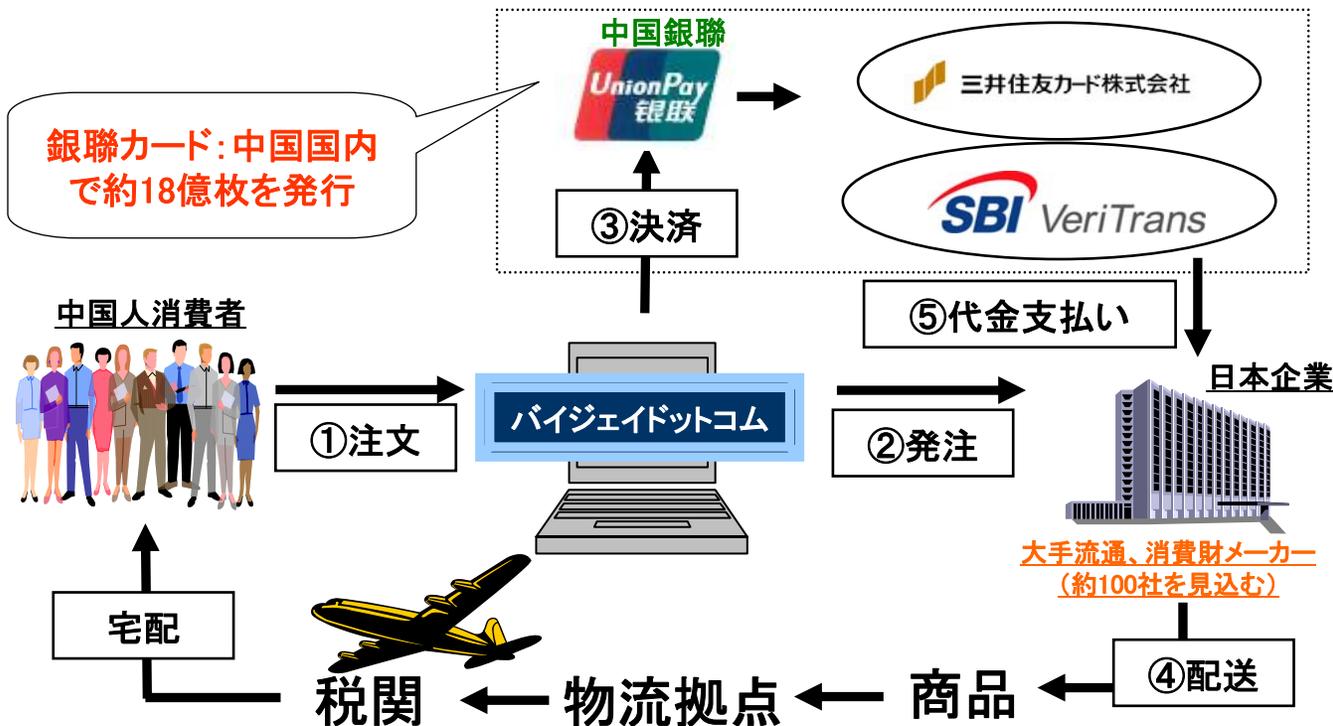
SBIベリトランス：中国関連事業展開①

～三井住友カードと連携し、中国向けネット通販での銀聯カード決済を開始～

→「銀聯ネット決済」が可能なECモール「バイジェイドットコム」を1月26日に開設

Webサイト構築から商品説明などの翻訳、商品発送、ユーザー対応まで、
小売販売事業者を総合的にサポート

<ネット通販の仕組み>



ECモール
「バイジェイドットコム」
([佰宜杰.com](http://buyjei.com))

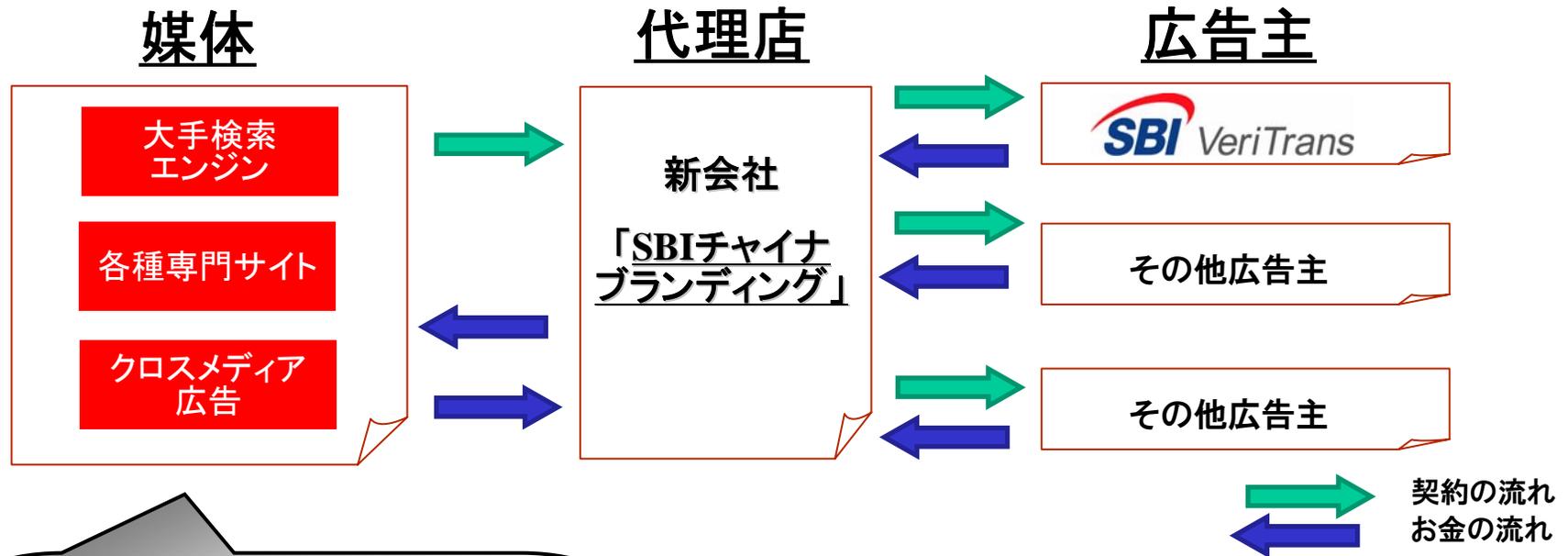
初年度の売上目標：40億円



SBIベリトランス：中国関連事業展開②

～日本企業の中国向け広告代理店業務を行う子会社を設立～

「バイジェイドットコム」でのノウハウを外部提供



第1弾として「百度株式会社(※)」と提携

(※) 中国国内において約70%のシェアを誇る最大手検索サイト「百度(Baidu)」の日本法人

同社のリスティング(検索連動型)及び各種広告の取扱いを開始

- 会社名 SBIチャイナブランディング株式会社
- 事業概要 中国市場向け広告代理店業
- 設立年月日 平成21年1月22日
- 代表者 代表取締役 沖田 貴史

メディアでも注目されるSBIベリトランスの中国関連事業

ネット通販で銀聯カード決済を取り扱うのは、日本初。世界でも中国・香港を除けば初めての取り組みとなる。

記事

(2009年1月19日 金融経済新聞より抜粋)

中国のインターネット人口は2008年12月時点で**2億9,800万人**。07年の個人向けネット通販の市場規模は**560億元(約7,300億円)**に達しているとみられている。

記事

(2009年1月26日 日経MJ(流通新聞)より抜粋)

(4) 住宅不動産関連事業

2009年3月期 第3四半期累計
売上高 321億円(前年同期比 41%減)
営業利益 15億円(同 80%減)

主な連結子会社等

- SBIホールディングス(事業部)
- リビングコーポレーション
- SBIモーゲージ
- セムコーポレーション

※ 上記はファンド連結後のセグメント別の数値で記載しております。

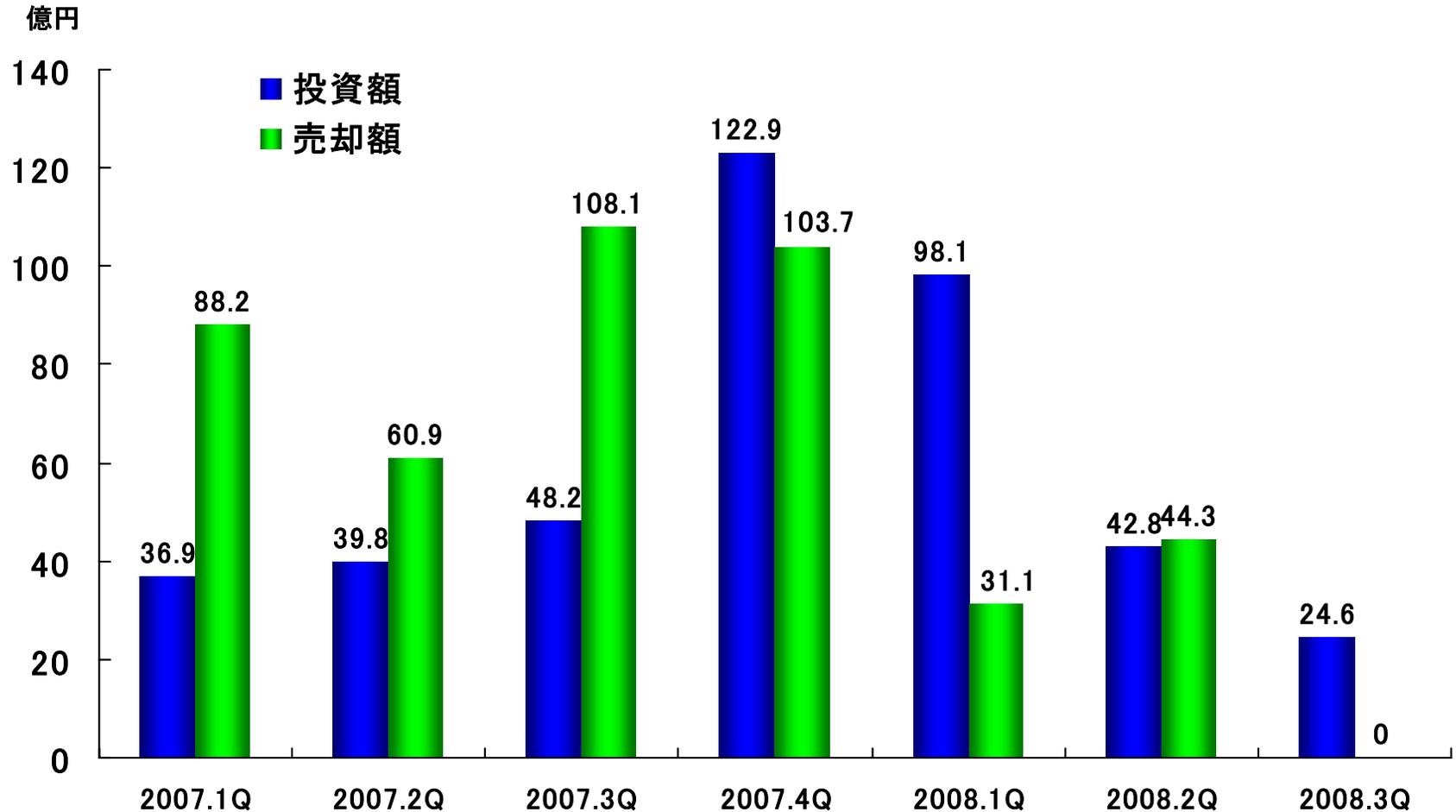
※ 連結消去および全社費用控除前の数字です。

※ 億円未満を四捨五入した数字です。

住宅不動産関連事業のハイライト

- I 住宅不動産関連事業は、国内の不動産市場収縮の影響等により、対前年同期比で売上高は41%減の321億円、営業利益は80%減の15億円となる。
- II 不動産事業については、2008年3月期は年間を通じて物件の売却を進めた反面、当第3四半期は、予定していた物件の売却が第1四半期(2008年4～6月期)までにほぼ一巡したため、前年同期比では売上高が大幅に減少。資金化が可能な物件については今後売却を進める一方、現在は新規投資を抑制。
- III 現在の不動産市況を鑑み、子会社リビングコーポレーションにSBIグループから55億円の借入極度枠を設定。2008年12月末の極度枠使用額は8億円で、同社単独での事業展開は概ね問題ないと思われる。
- IV SBIモーゲージは住宅ローン商品「フラット35」を業界最低水準金利で提供、2008年12月末には実行残高は4,390億円となり順調に拡大中。
- V 生活関連ネットワーク事業も順調に成長。比較検索サイト事業ならびに仲介マーケット事業の合算営業利益(08年4～12月期)は、前年同期比91.8%増の349百万円と大幅に増加。

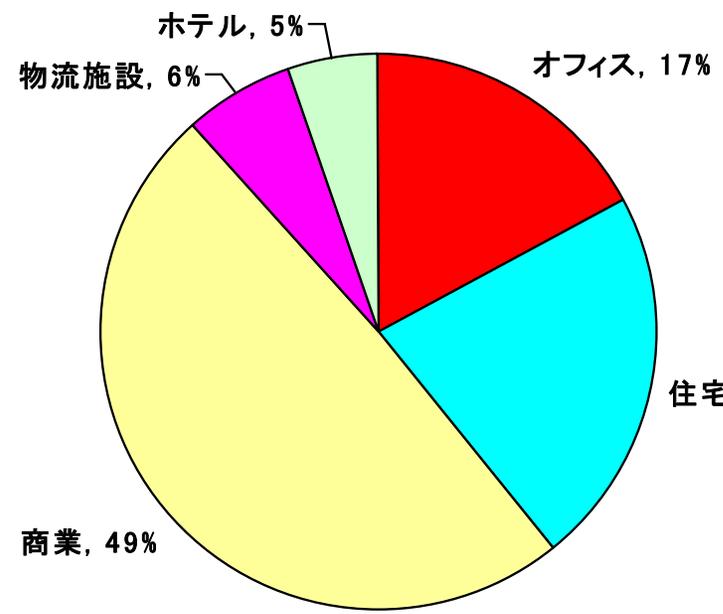
SBIホールディングス 不動産事業本部における 不動産投資額及び売却額の四半期別推移



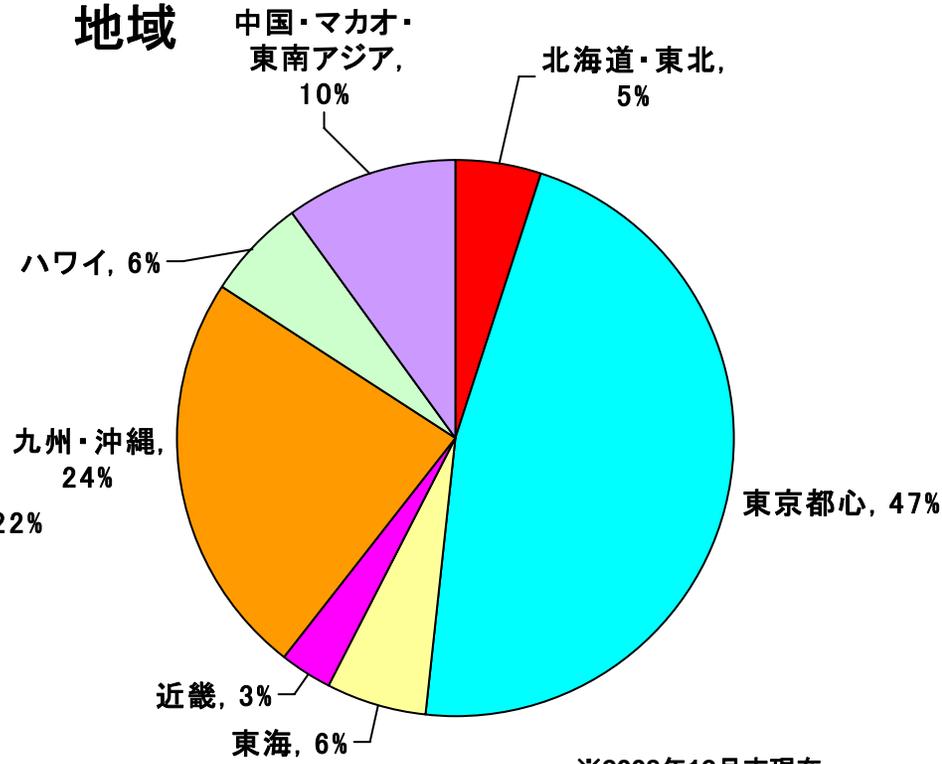
※当該投資及び売却額は不動産事業本部における実績を記載しております。

当社不動産事業における保有物件の状況

不動産物件の種類



地域



※2008年12月末現在

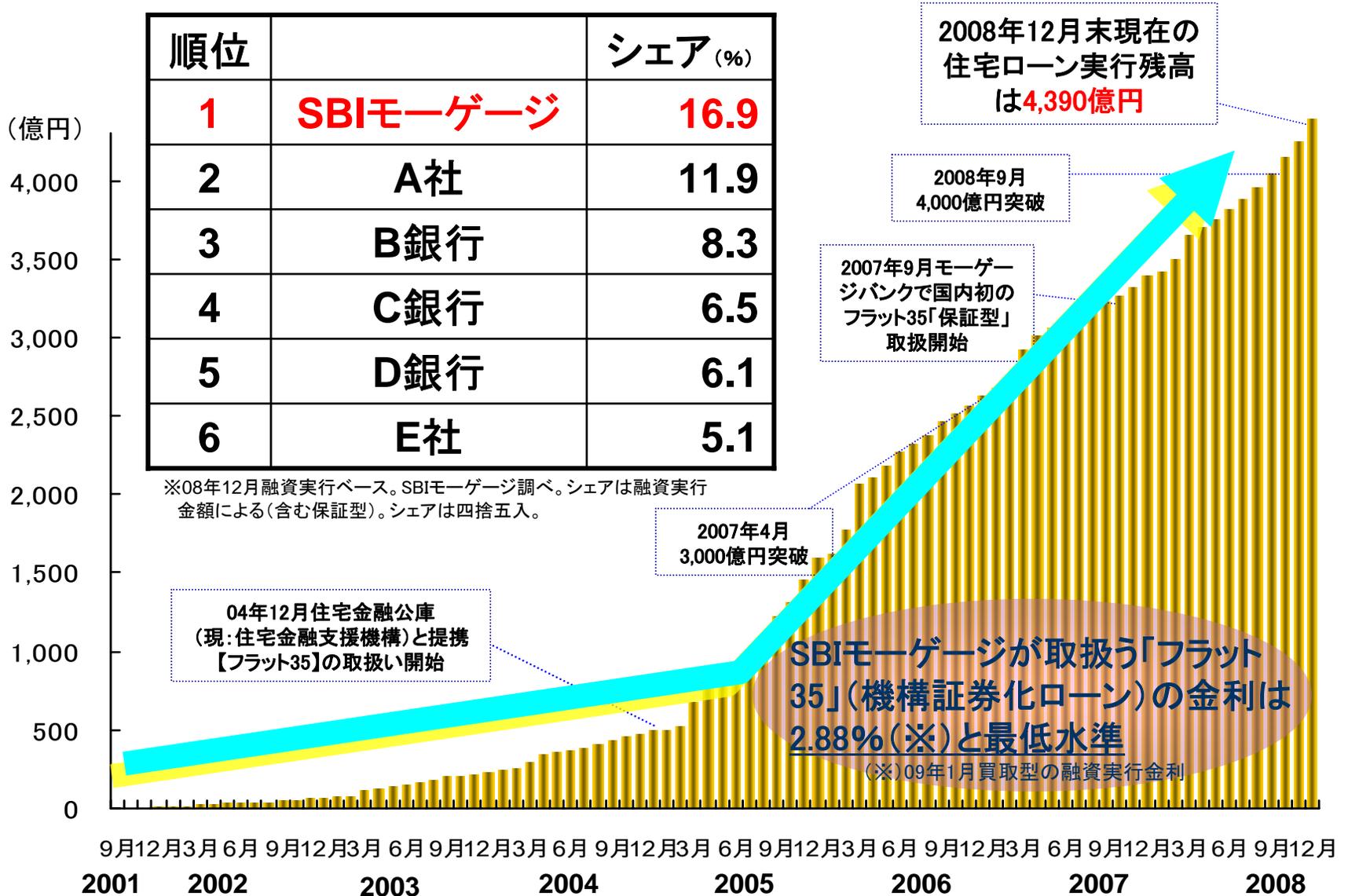
**ローンによるレバレッジをかけた開発は行わず、
自己資金での開発が中心**

順調に残高を積み上げ拡大するSBIモーゲージ

08年12月「フラット35」シェア順位

| 順位 | | シェア (%) |
|----|-----------------|-------------|
| 1 | SBIモーゲージ | 16.9 |
| 2 | A社 | 11.9 |
| 3 | B銀行 | 8.3 |
| 4 | C銀行 | 6.5 |
| 5 | D銀行 | 6.1 |
| 6 | E社 | 5.1 |

住宅ローン実行残高推移



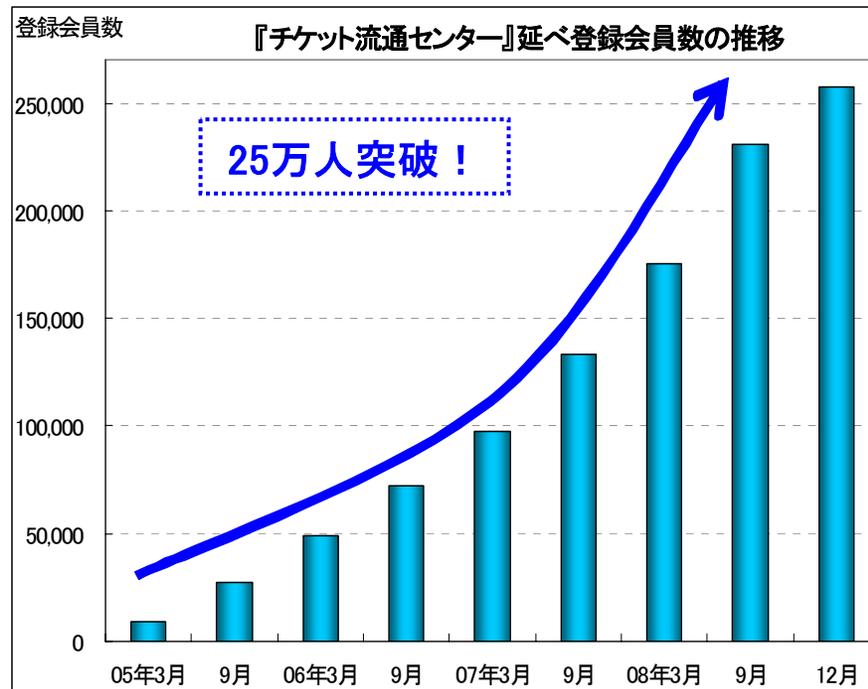
大きな成長をみせる生活関連ネットワーク事業

仲介サイトを運営する「仲介マーケット事業部」

・第3四半期(08年4~12月)は、**売上高が前年同期比71.9%増**の617百万円、**営業利益が同98.8%増**の323百万円と、大きく躍進

・興行チケットの個人間売買仲介サービスを提供する「チケット流通センター」は、**会員数が25万人を突破**

・商品の売買取引仲介サイト「muSBI(ムスビー)」においても**成約数、会員数が共に大幅増加**



比較・検索サイトを運営する「インターネットメディア事業部」

・第3四半期までの**営業利益は、前年同期比32.2%増**の約26百万円と堅調に推移

・引越しの見積もりサイト「引越し達人セレクト」では、**モバイル経由での見積もりが増加**しているほか、格安航空券比較サイト「ALL格安航空券比較」では**参加会社が増加**

3. 現在の経済環境が当面続くことを 前提とした事業戦略

(1) 主要事業に関連する市場の見通しと事業方針概略

- ・SBIグループの前提とする市場見通し
- ・主な事業方針

(2) 市場環境に左右されにくい新規事業の早期育成

① 金融分野の主な新規事業

【住信SBIネット銀行】

【SBI損害保険】 【SBIアクサ生命保険】

【SBIファイナンスポータル】

② バイオ関連事業

【SBIバイオテック】 【SBIアラプロモ】

【バイオ関連出資先】

(1) 主要事業に関連する市場の見通しと事業方針概略

SBIグループの前提とする市場見通し

- 国内株式市場：** 米国の住宅不動産市場の底打ちは、2010年半ばと見込まれるので、米国実体経済の回復も同じ頃と思われる。米国株式市場は、2009年秋～年末にかけて実体経済に先行して回復し始める可能性が高いが、それまではレンジでの推移と思われ、連動性の高い日本の株式市場も同様の動きをすると予測
- 海外株式市場：** 主要新興国の中では、中国の回復が早く、その後はベトナム・インドと順次回復していくと思われる
- 為替：** 今後1年～1年半は円高傾向が続き、1ドル=85円位までは比較的早く進むと予測（その後、一時的に80円を割る可能性も）
- 国内不動産市場：** 株式市場の反転後、約1年程で反転が見込まれる

主な事業方針

アセットマネジメント事業：

- ・海外ファンドの新規設立は、現在交渉が最終段階の2つが合意に達すれば、海外への布石は当面終了し、残るはブラジルのみ
- ・設立済みで投資待機中のファンドからの投資は、円高が継続し、且つ各国株式市場の本格回復前のタイミングで速やかに実行

証券関連事業：

- ・株式市場回復時の収益最大化を目指した取引シェアの更なる向上
- ・FX取引等による収益の多様化

住宅不動産事業：

- ・売却の推進と新規投資の抑制

投資待機中の既存海外ファンド(1)

05年より運用開始

08年3月より
運用開始

09年2月より
運用開始予定

正式契約書締結
へ向けた最終段階

| | | | | |
|--------------------------|---|---|--|--|
| ファンド名 (略称) | New Horizon Fund | 清華大学ファンド | 北京大学ファンド | 中国三社との 共同ファンド |
| 進捗状況 | 出資先10社のうち6社 IPO済。 09年中には1社 がIPO予定。 | 外資との合弁ファンド 設立は北京で初。 2件投 資実行済。 | 契約締結及び政府認可 取得済。 中国の有望な 未上場企業に投資予定。 | 08年6月ファンド設立基本合 意。 4社による運用会社の設 立準備中。同社を通じて中国 の未上場企業に投資予定。 |
| パートナー | TEMASEK | 清華 ホールディングス | 北京大青島環宇 | ・招商証券 ・源裕投資 ・中信銀行 |
| 投資対象国 | 中国  | | | |
| 投資対象 | 非流通株及び 未上場企業 | 国内未上場企業 | 企業ないし 不動産関連 | 製造業、消費財産業、サー ビス産業、小売産業、物流と 輸送業、エネルギーと資源 産業 |
| 出資金額 (単位:百万USD ドル) | 100 (当社出資比率 50%) | 30 (当社出資比率 99%) | 100 (当社出資比率 50%) | Offshore: 約17.1 (SBIH) Onshore: 約7.3 (中国側) |

投資待機中の既存海外ファンド(2)

09年3月より
運用開始予定

08年4月より
運用開始

08年4月より
運用開始

08年6月より
運用開始

| ファンド名 (略称) | SBI-METROPOL Investment Fund | India Japan Fund | Vietnam Japan Fund | SBI SOI Fund |
|----------------------|---|---|--|---------------------------------------|
| 進捗状況 | 正式契約書締結の最終合意済。 <u>成長性の高いロシアの上場・未上場企業に投資予定。</u> | <u>インドに拠点を持つ上場・未上場企業に投資予定。2件投資実行済。</u> | ベトナム通貨建て ファンド、ベトナムの上場・未上場企業に投資予定。 <u>上場企業2銘柄に投資実行済。</u> | 08年6月ファンド設立。 <u>アジアの大学発ビジネスに投資予定。</u> |
| パートナー | IFC METROPOL | インド 国営銀行 | FPT | 慶応大学 |
| 投資対象国 | ロシア  | インド  | ベトナム  | アジア |
| 投資対象 | ・未上場企業(70%) ・上場企業(30%) | ・未上場企業(70%) ・上場企業(30%) | ・未上場企業 ・上場企業 | 大学発 ベンチャー企業 |
| 出資金額 (単位:百万USDドル) | 100 (当社出資比率50%) | 100 (当社出資比率 95%) | 100 (当社出資比率 90%) | 5億円 (当社出資比率100%) |

第2・3四半期中に合意した新ファンド

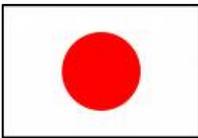
09年2月より
運用開始予定

08年10月より
運用開始

08年11月より
運用開始

09年3月より
運用開始予定

09年3月より
運用開始予定

| ファンド名 (略称) | Hungary Fund | Fullerton Asia Financials Fund | 台湾ファンド | SBI PRIVATE EQUITY FUND | MASDAR-SBI Fund |
|---------------|---|--|---|--|--|
| 進捗状況 | 08年12月ファンド設立 最終合意。 | 08年10月に共同設定。 | 08年10月に設立済。 | 09年3月設立予定。 | 09年1月にファンド設立 のための最終契約書を 締結。 |
| パート ナー | MFB Invest Ltd.(ハンガリー 開発銀行の100%子会社) | Fullerton Fund Management Company Ltd(シンガポール 政府系投資会社TEMASEK の100%子会社) | 台湾のIT企業創業者 | — | Masdar Clean Tech Fund |
| 投資 対象国 | ハンガリー  と周辺の中東欧諸国 | アジア主要国 | 台湾及び中国  | 韓国  | 日本  |
| 投資対象 | 中東欧諸国における 未上場及び上場企業 | 銀行等の 上場金融機関 | 台湾及び中国の未上場 企業 | 上場金融機関や韓国に多数 存在する財閥の系列企業 | 有望な代替エネルギー関連 ベンチャー企業 |
| 出資金額 | 100 mil. EUR (当社出資比率60%) | 60 mil. USD (当社出資比率 50%) | 22.5 mil. USD (当社出資比率66.7%) | 100-300 bil. KRW | 20 mil. USD (当社出資比率50%) |

UAE政府系の“Masdar Clean Tech Fund”と代替エネルギー

関連投資ファンドを共同設立することで最終合意



・「IT」「バイオ」に続く21世紀の次なる成長産業として「環境・エネルギー」を第三の重点分野と位置づけ



MASDAR-SBI Fund

出資約束金額: 2,000万米ドル

投資対象: 日本の有望な代替エネルギー関連企業

2009年1月 最終契約締結

2009年3月 運用開始(予定)

Masdar Clean Tech Fund

- ・再生可能エネルギー技術関連の投資で主導的役割を果たす
- ・先進的エネルギー技術の発達を目指すUAEの国家プロジェクト、「マスタートール計画」を推進中

記事

2009年1月23日 日本経済新聞朝刊

SBIグループの環境投資ネットワークとMasdarの豊富な財政資源を融合し、高成長が見込まれる代替エネルギー関連産業へ重点投資

【 SBIリクイディティ・マーケット】

(2008年11月17日営業開始)

従来の収益寄与額予想を大幅に上回る水準でスタート

【従来予想:2009年3月期】

SBI証券への目標利益寄与額 : 営業利益で約8億円

SBIリクイディティ・マーケットの目標利益額: 営業利益で約4億円

2009年3月期 通期での収益貢献見込額

(単位:億円)

| | 09年3月期 3Q累計実績 | 09年1月 (単月) | 09年2月 (単月) | 09年3月 (単月) | 09年3月期 (通期) |
|------------------------|------------------|---------------|---------------|---------------|----------------|
| トレーディング益 (銀行手数料控除後) | 5.3 | 7.3~7.8 ※ | 7.0~8.0 | 9.0~12.0 | 28.6~33.1 |
| 内、SBI証券の トレーディング益 | 3.4 | 4.6~5.0 | 4.4~5.1 | 5.7~7.7 | 18.4~21.3 |

※ 1/20(20営業日中12営業日経過)時点

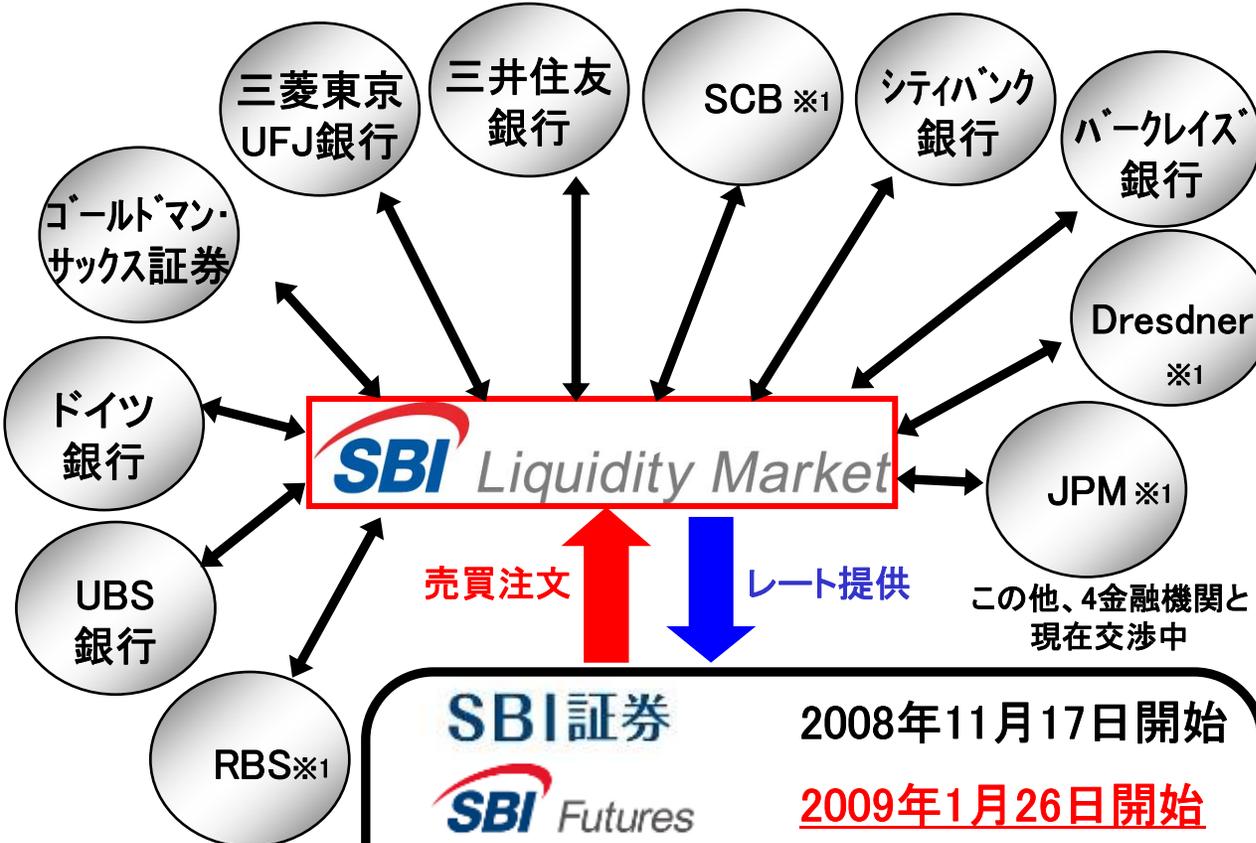
4.6億円

営業開始から短期間で取引を急拡大させている SBIリクイディティ・マーケット



カウンターパーティー群

欧米主要金融機関及び国内大手銀行 計15行(予定)



SBI Liquidity Market
(2008年11月17日開業)

| | 口座数 (SBI FX α) | 1日平均 取引数量(枚) |
|--------|-------------------|-----------------|
| 08年11月 | 70,683 | 71,400 |
| 08年12月 | 93,498 | 175,544 |
| 09年1月 | ※2 104,316 | ※2 264,883 |

【参考】 **くりっく365**
(2005年7月開業)

| | 口座数 | 1日平均 取引数量(枚) |
|--------|---------|-----------------|
| 08年11月 | 114,301 | 144,496 |
| 08年12月 | 120,713 | 113,767 |
| 09年1月 | - | ※2 165,082 |

出所: ホームページ等公表資料より当社にて集計

※1 各社略称

- RBS・・・ロイヤルバンク・オブ・スコットランド
- SCB・・・スタンダード・チャータード銀行
- Dresdner・・・ドレスナー・クラインオート証券
- JPM・・・JPモルガン・チェース銀行

※2 2009年1月27日現在

SBI証券 2008年11月17日開始
SBI Futures 2009年1月26日開始
住信SBIネット銀行 2009年春開始に向けて
SBI Sumishin Net Bank 準備中

その他の金融機関、FX取引業者等にも
順次サービス提供を開始予定

SBIリクイディティ・マーケットを活用した SBI証券における新たなFX取引『SBI FX α』の サービス開始



『SBI FX α』

11月17日からサービス開始

- 大手ネット証券※1最多の20通貨ペアの取り扱い
- レバレッジの選択肢を拡大
- 従来の10分の1の1,000通貨単位での取引が可能な「SBI FXミニ」を新設
- 注文方法を追加し、多様な注文パターンに対応

オンライン証券各社の 外国為替保証金取引口座数

(2008年12月末現在)

| | |
|----------|-----------|
| SBI FX | 139,893 |
| SBI FX α | ※2 93,498 |
| マネックス | 84,939 |
| 松井 | 55,335 |
| カブコム | 24,351 |

『SBI FX α』取引口座数 (2008年12月末現在)

93,498口座

サービス開始からわずか**45日**で、他の主要オンライン証券3社※3の口座数を上回る。

見込収益寄与額 (2009年3月期通期)

18~21億円

出所: 各社ホームページ等公表資料より当社にて集計

※1 SBI証券、マネックス証券、松井証券、カブドットコム証券、楽天証券の5社

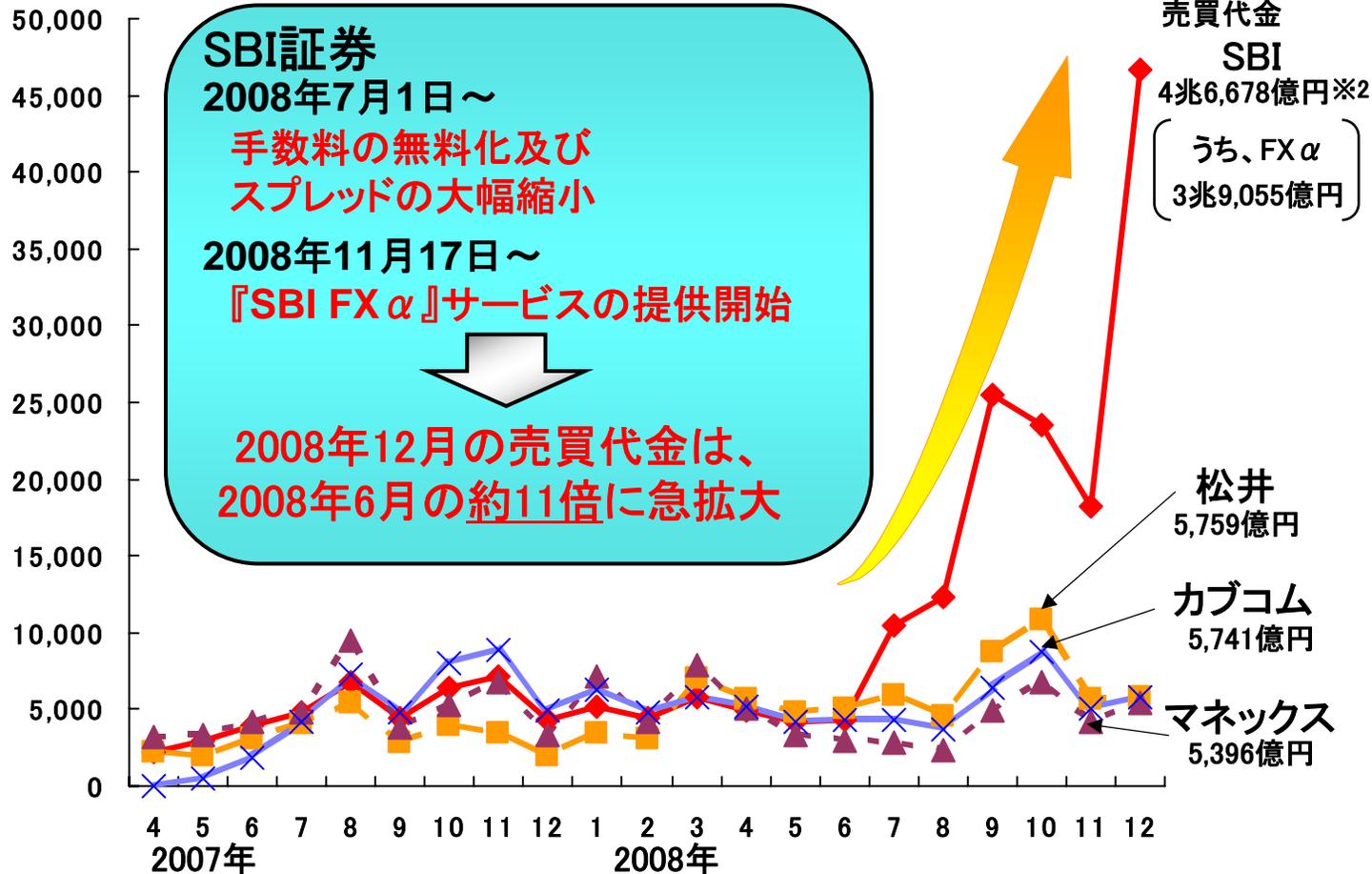
※2 同一顧客が両口座を保有している場合は、それぞれ1口座としてカウント。

※3 データが開示されたマネックス証券、松井証券、カブドットコム証券の3社

ネット証券大手4社※1の 外国為替保証金取引売買代金の推移

サービス内容の拡充により、SBI証券におけるFX取引の売買代金は大きく拡大

(単位:億円)



記事

(2009年1月23日 日刊工業新聞より抜粋)

※1 データが開示されたSBI証券、マネックス証券、松井証券、カブドットコム証券の4社

※2 2008年11月以降は、『SBI FX』及び『SBI FXα』の売買代金合計 出所:各社ホームページ等公表資料より当社にて集計

証券関連事業：【好況時の飛躍に向けたシェアの拡大】

不況時にシェアを伸ばすことが好況時の利益拡大へ

中核会社であるSBI証券の営業利益は、株式市場の低迷を受け減少しているが、口座数・個人株式委託売買代金シェアは逆に上昇

2006年3月期
通期(12ヶ月間)

2009年3月期
第3四半期累計(9ヶ月間)

SBIグループ証券子会社の営業利益

380億円 (合算)

80億円

口座数と
売買代金シェアは
拡大しており、
相場回復時には
大きく利益が
拡大することが
見込まれる

SBIイー・トレード証券(連結): 300億円
旧SBI証券: 80億円

SBI証券

123万口座 ※1

+58万口座

口座数

181万口座

個人株式委託売買代金シェア ※2

| イー・トレード | 23.1% | +14.9%ポイント | SBI証券 | 38.0% |
|---------|-------|------------|---------|-------|
| 楽天証券 | 11.1 | | 楽天証券 | 14.2 |
| 松井証券 | 10.0 | | 松井証券 | 7.6 |
| マネックス | 8.0 | | マネックス | 6.4 |
| カブドットコム | 5.2 | | カブドットコム | 5.7 |

※1 SBIイー・トレード証券と旧SBI証券の合算

出所：東証統計資料、JASDAQ統計資料、各社ホームページ等公表資料より当社にて集計
※2 個人株式委託売買代金は3市場(1・2部)とJASDAQを合算

(2) 市場環境に左右されにくい新規事業の早期育成

① 金融分野の主な新規事業

【住信SBIネット銀行】 (2007年 9月開業)

【SBI損害保険】 (2008年 1月開業)

【SBIアクサ生命保険】 (2008年 4月開業)

【SBIファイナンスポータル】(2009年 1月開設)

② バイオ関連事業

【SBIバイオテック】

【SBIアラプロモ】

【バイオ関連出資先】

①金融分野の新規事業

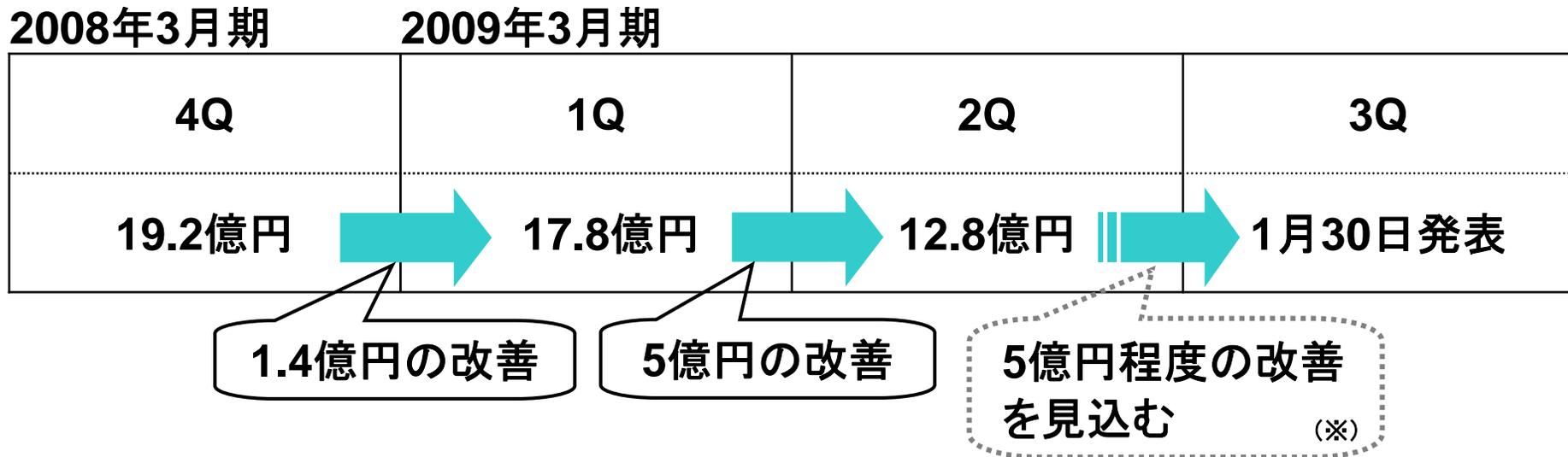
【住信SBIネット銀行】

開業時の事業計画 (2007年9月24日開業)

- ・目標口座数 2010年3月期:40万口座程度、2012年3月期:60万口座程度
- ・目標預金量 2010年3月期:7,000億円程度、2012年3月期:1兆円程度
- ・目標収益 2010年3月期:単年度黒字化
2012年3月期:当期純利益50億円程度・累損解消

～来年度黒字化が視野に～

【経常損失の推移】



2010年3月期の単年度黒字化に向けて
引き続き業績改善の見込み

預金残高は開業から389日で5,000億円を突破

競争力のある金利の設定、個人顧客に対する手数料無料でのATM入出金・振込取引の提供のほか、各種キャンペーンの展開により、2007年9月24日の開業から389日で預金残高が5,000億円を突破した。

各行が預金残高5,000億円突破に要した日数

| | 開業日 | 預金残高が 1,000億円を 超えた時期 (注1) | 開業からの 日数 | 預金残高が 5,000億円を 超えた時期 (注1) | 開業からの 日数 | 預金残高 (注2) |
|-------------------|------------------|------------------------------------|--------------|------------------------------------|--------------------------|----------------|
| イーバンク銀行 | 2001/7/23 | 2003/10/1～ 2004/3/31 | 801～ 983日 | 2007/4/20 | <u>2,098日</u> | 7,726億円 |
| ジャパンネット銀行 | 2000/10/12 | 2002/10/1～ 2003/03/31 | 720～ 901日 | — | — | 4,484億円 |
| ソニー銀行 | 2001/6/11 | 2002/3/1～ 2002/03/31 | 264～ 294日 | 2004/12/1～ 2004/12/31 | <u>1,270～ 1,300日</u> | 13,392億円 |
| 住信SBIネット銀行 | 2007/9/24 | 2007/11/19 | 57日 | 2008/10/16 | <u>389日</u> | 5,642億円 |

(注1) 各行公表資料より、預金残高がそれぞれの金額を超えたことが判明した時期

(注2) 住信SBIネット銀行は2009年1月27日現在の残高、ジャパンネット銀行・ソニー銀行・イーバンク銀行は2008年12月末の残高

住宅ローン実行累計額も順調に拡大

～住宅ローン取扱い開始から**411日**で、同実行累計額**1,000億円突破**～

(2008年11月7日)

(ジャパンネット銀行、イー・バンク銀行は住宅ローン取扱なし)

| | ソニー銀行 | 住信SBIネット銀行 (注1) |
|--------------------|-----------------|--------------------|
| 開業日 | 2001年6月 | 2007年9月 |
| 住宅ローン取扱い開始 | 2002年3月 | 同上 |
| 1000億円突破に 要した日数 | 1020～1110日 (注2) | 411日 |

インターネット専業銀行としては最速での到達！

住信SBIネット銀行では、キャンペーン(注3)優遇金利として基準金利より最大年2.2%優遇するなど競争力のある金利の設定や8疾病保障が無料で付保可能になるほか、一部繰上返済手数料・金利タイプ変更手数料無料や銀行への来店不要で契約手続きが完了等々の顧客利便性を追求したサービスを展開

(注1)ソニー銀行は約定返済分を反映した実行残高、住信SBIネット銀行は実行金額ベース

(注2)公表資料より当社にて集計、(注3)2009年3月31日申し込み受付分まで

更なるサービス・商品の拡充

口座振替サービス提供先 (2008年11月以降～) : 16社

株式会社アプラス

出光クレジット株式会社

SMBCファイナンスサービス株式会社

株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ

株式会社オーエムシーカード

株式会社オリエントコーポレーション

株式会社クオーク

株式会社クレディセゾン

株式会社ジャックス

ソフトバンクモバイル株式会社

みずほファクター株式会社

三菱UFJニコス株式会社

三菱UFJファクター株式会社

ユーシーカード株式会社

株式会社ライフ

楽天KC株式会社

(五十音順 2009年1月5日現在(予定))

2008年11月14日からはSBIアクサ生命の口座振替サービスの提供を開始し、簡単な手続きで生命保険料の口座引落しが可能に。

新たな商品の取り扱い

- ・生命保険募集代理店契約を締結し、SBIアクサ生命の生命保険商品の取扱いを開始
- ・新たな預金商品として仕組預金の販売を開始

その他の取り組み

同時申し込み比率

(導入前※)約23%⇒(導入後)約48%へ増加

2009年1月6日～、SBI証券との口座同時申込機能(FLASH版)を導入

順調に拡大する住信SBIネット銀行の顧客基盤



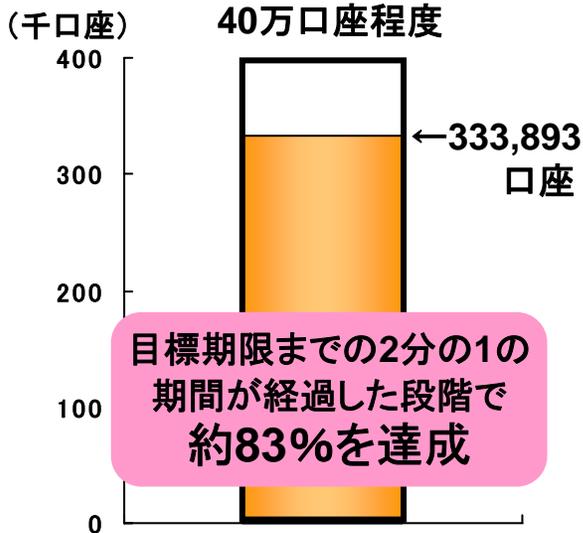
2008年12月末時点 ※()内は2009年1月27日時点の速報値

| | | |
|--------|------------------|-------------|
| 口座数: | 333,893口座 | (356,056口座) |
| 預金量: | 5,519億円 | (5,642億円) |
| 貸出金残高: | 1,338億円 | (1,440億円) |
| | (住宅ローン+ネットローン) | |

<2008年12月末での達成率>

口座数

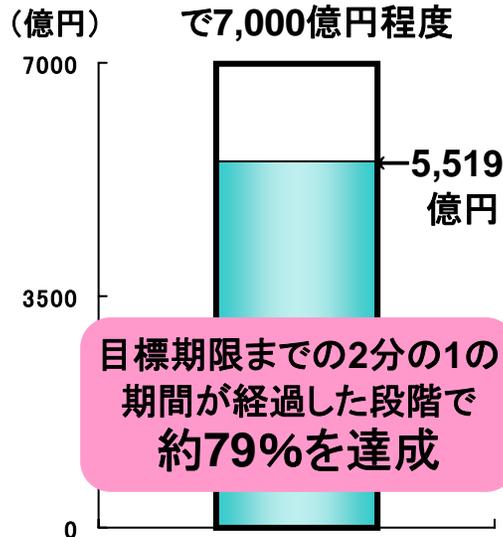
目標:2010年3月末で
40万口座程度



開業15ヶ月間

預金量

目標:2010年3月末
で7,000億円程度



開業15ヶ月間

2009年1月27日時点での達成率

口座数:356,056口座

約89%を達成

預金量:5,642億円

約81%を達成

第2四半期に引き続き、顧客基盤を拡大中

ネット銀行5行の第3四半期(10月-12月)比較

| | 2008年3月期第3四半期中 (10-12月)の増減数 | | 2008年12月末 |
|---------------|--------------------------------|----------------|----------------------------|
| | 口座増加数 (口座) | 預金増加額 (百万円) | 顧客あたり 預金残高 (千円) (※2) |
| 住信SBIネット銀行 | 83,326 | 65,340 | 1,653 |
| ソニー銀行 | 31,001 | 1,000 | 1,909 |
| イーバンク銀行 | 108,000 (※1) | ▲4,200 | 257 |
| ジャパネット銀行 | 40,000 | 2,200 | 231 |
| じぶん銀行 (※3) | — | — | — |

※1 累計口座開設承認数(解約件数を除く)の増加数

※2 預金残高÷口座数

※3 じぶん銀行は未開示

急速に増加する預金運用のための5つの柱

グループシナジーを追求することで多様な顧客ニーズへのトータルソリューションの提供と同時に運用の安定化・多様化を図る

◆住宅ローン

- ・申し込みベースで前期10,000件を突破するなど順調に推移(前々期は4,691件)

◆個人向け無担保ローン

- ・限度額500万円で、最優遇貸出金利は5.5%
 - ・SBIイコール・クレジットが住信SBIネット銀行のネットローンを保証(11月～)
- ⇒新会社NEXを設立し、貸金業登録・システム構築を経て、保証スキームを構築する。

◆オートローン

- ・保証会社選定中

◆不動産担保ローン

- ・ファーストクレジット株式会社の保証(個人向け)、株式会社セムコーポレーションの保証(事業会社向け)にて取扱開始

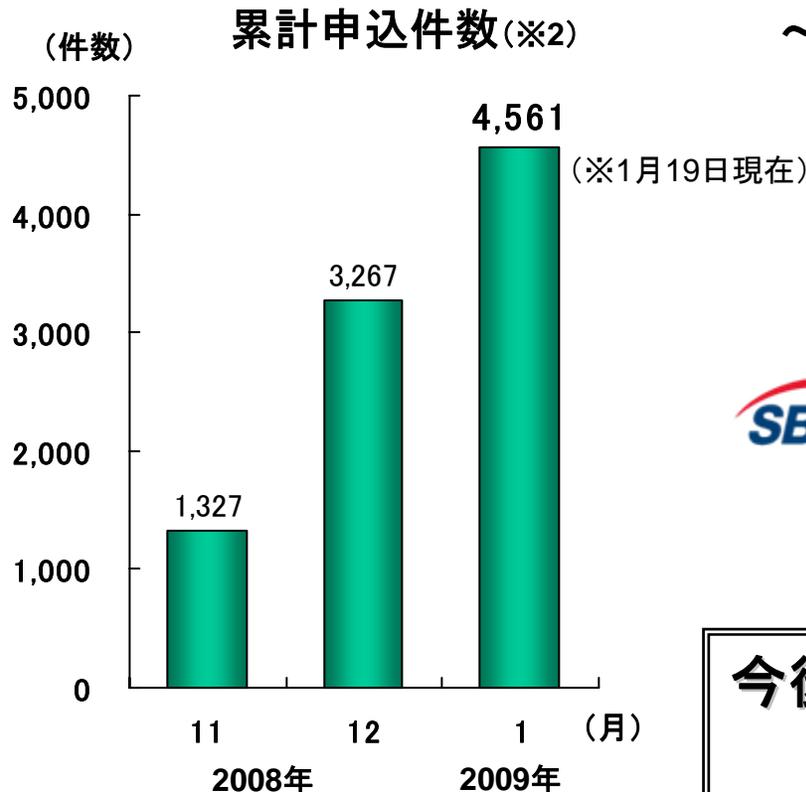
◆診療報酬債権ファクタリング(レセプトファイナンス)

- ・SBIレセプト社から診療等報酬債権を譲受けるスキームを開始(11月～)
- ⇒既に、325百万円を実行済み(2009年1月22日現在)

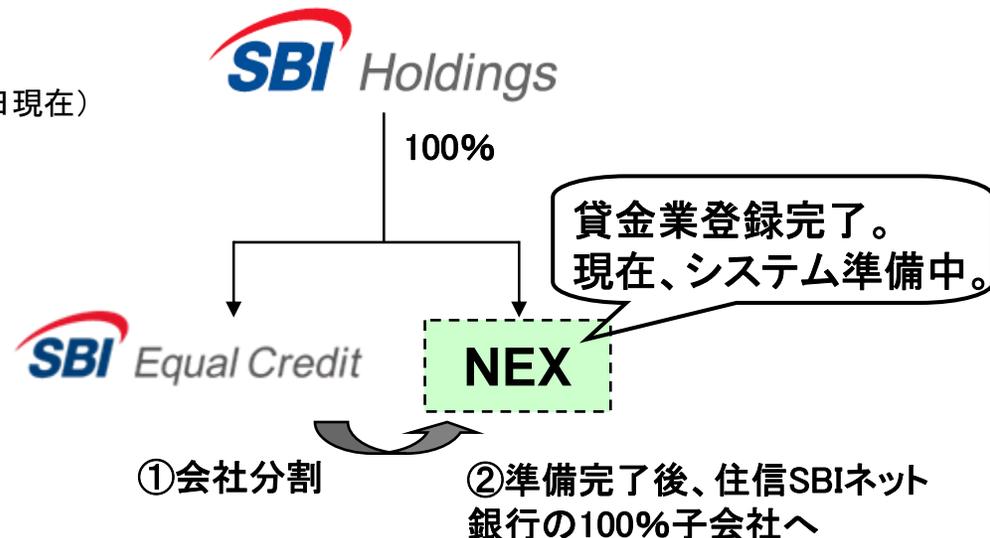
順調に始動したSBIイコール・クレジット保証の 個人ローン「ネットローン」事業

SBIイコール・クレジットの個人ローンノウハウを活用した保証スキームの構築

SBIイコール・クレジットが住信SBIネット銀行のネットローンを保証(11月15日から開始)(※1)



～今後の予定～



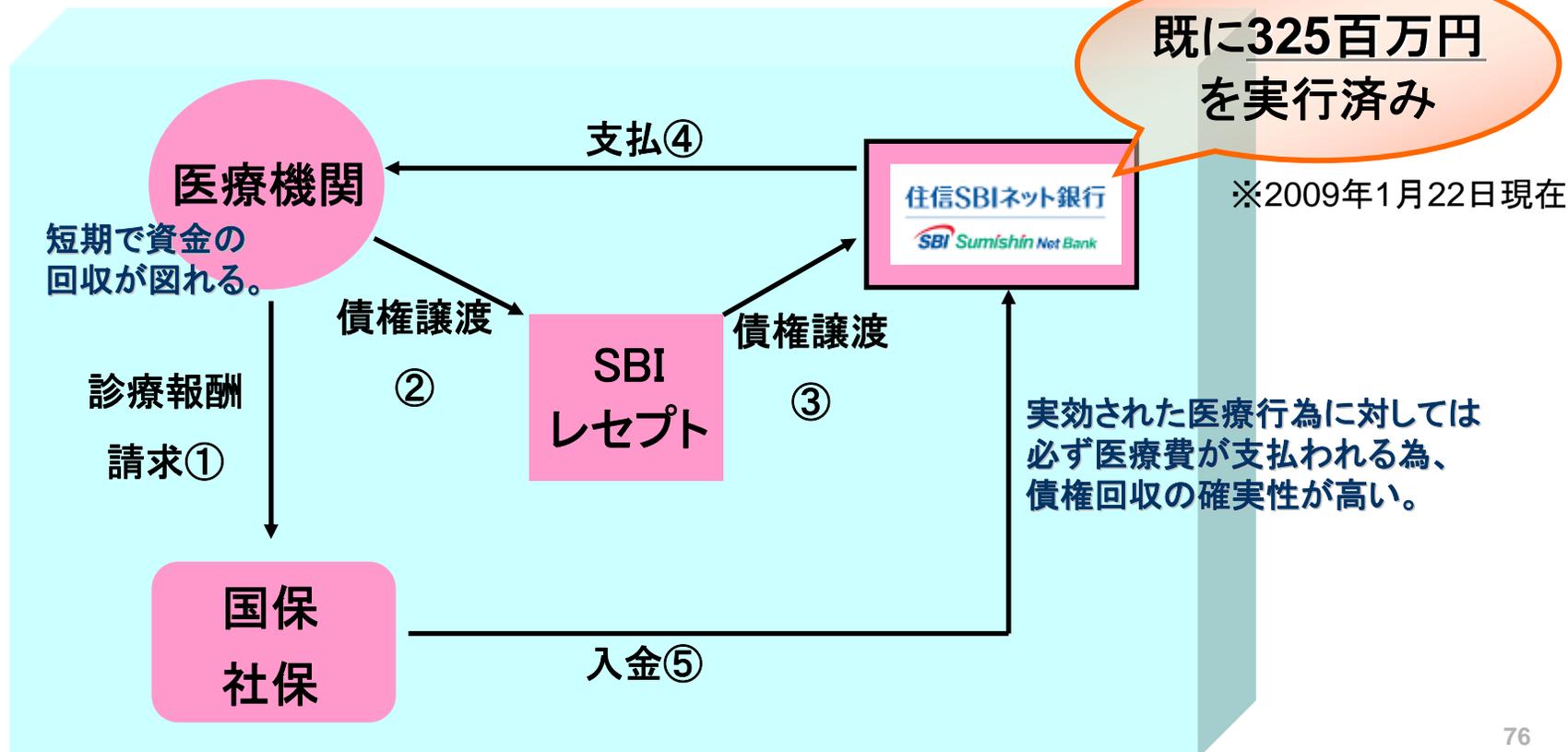
今後、新会社NEXによる保証を開始し、
ネットローン事業の拡大を図る。

(※1)住信SBIネット銀行が提供するネットローンのスタンダードコース(10～50万円)をSBIイコール・クレジットが保証。

(※2)実際の融資件数とは異なる。

11月より開始した新たな運用手段としての 診療報酬債権ファクタリング

医療機関が社会保険診療報酬支払基金（社保）及び国民健康保険団体連合会（国保）に請求する診療報酬債権のうち、SBIレセプトは将来債権部分を、住信SBIネット銀行は確定債権部分を買取り、医療機関の入金サイトを短縮させるスキーム。住信SBIネット銀行としても国保、社保から確実に資金を回収できるため低リスク。



【SBI損害保険】

開業時の事業計画

(2008年1月16日開業)

- ・目標契約件数 5期目：約30万件
- ・目標収益 5期目：単年度黒字化、10期目：収入保険料250～300億円

「SBI損保」と業界他社との保険料比較

保険料例1 (ミニバン)

夫婦で休日の外出や日常の買い物に車を使用する場合(車両保険あり)

| SBI損保 | ダイレクト系A社 | ダイレクト系B社 | 代理店系D社 |
|-------------------|---------------|---------------|---------------|
| 年間 41,510円 | 年間 43,950円 | 年間 51,200円 | 年間 69,460円 |

保険始期日：平成20年12月1日 車名：セレナ
 型式：NC25 料率クラス：車両4 対人5 対物4 傷害4
 居住地：神奈川県 性別：男性 走行距離：年間5,000km
 初度登録：平成19年10月 運転者範囲：本人・配偶者
 ノンフリート等級：15等級 免許証の色：ゴールド
 使用目的：日常・レジャー 年齢条件：30歳以上補償
 対人：無制限 対物：無制限 人傷：5,000万
 搭傷：1,000万 車両：一般190万(免責0-10万)
 割増引：新車割引・インターネット割引・証券不発行割引

保険料例2 (軽自動車)

本人だけマイカー通勤で毎日車を使用する場合(車両保険なし)

| SBI損保 | ダイレクト系A社 | ダイレクト系C社 | 代理店系D社 |
|-------------------|---------------|---------------|---------------|
| 年間 14,770円 | 年間 16,050円 | 年間 18,360円 | 年間 26,760円 |

保険始期日：平成20年12月1日 車名：ワゴンR
 型式：MH21S 居住地：宮城県 性別：男性
 走行距離：年間5,000km 初度登録：平成18年10月
 運転者範囲：本人 ノンフリート等級：12等級
 免許証の色：ゴールド 使用目的：通勤・通学
 年齢条件：30歳以上補償 対人：無制限 対物：無制限
 人傷：5,000万 搭傷：500万 車両：なし
 割増引：エアバッグ割引・安全ボディ割引・ABS割引・
 インターネット割引・証券不発行割引

保険料例3 (セダン)

家族以外の方も車を運転される場合(車両保険あり)

| SBI損保 | ダイレクト系A社 | ダイレクト系B社 | 代理店系D社 |
|-------------------|---------------|---------------|---------------|
| 年間 53,440円 | 年間 54,500円 | 年間 67,590円 | 年間 85,470円 |

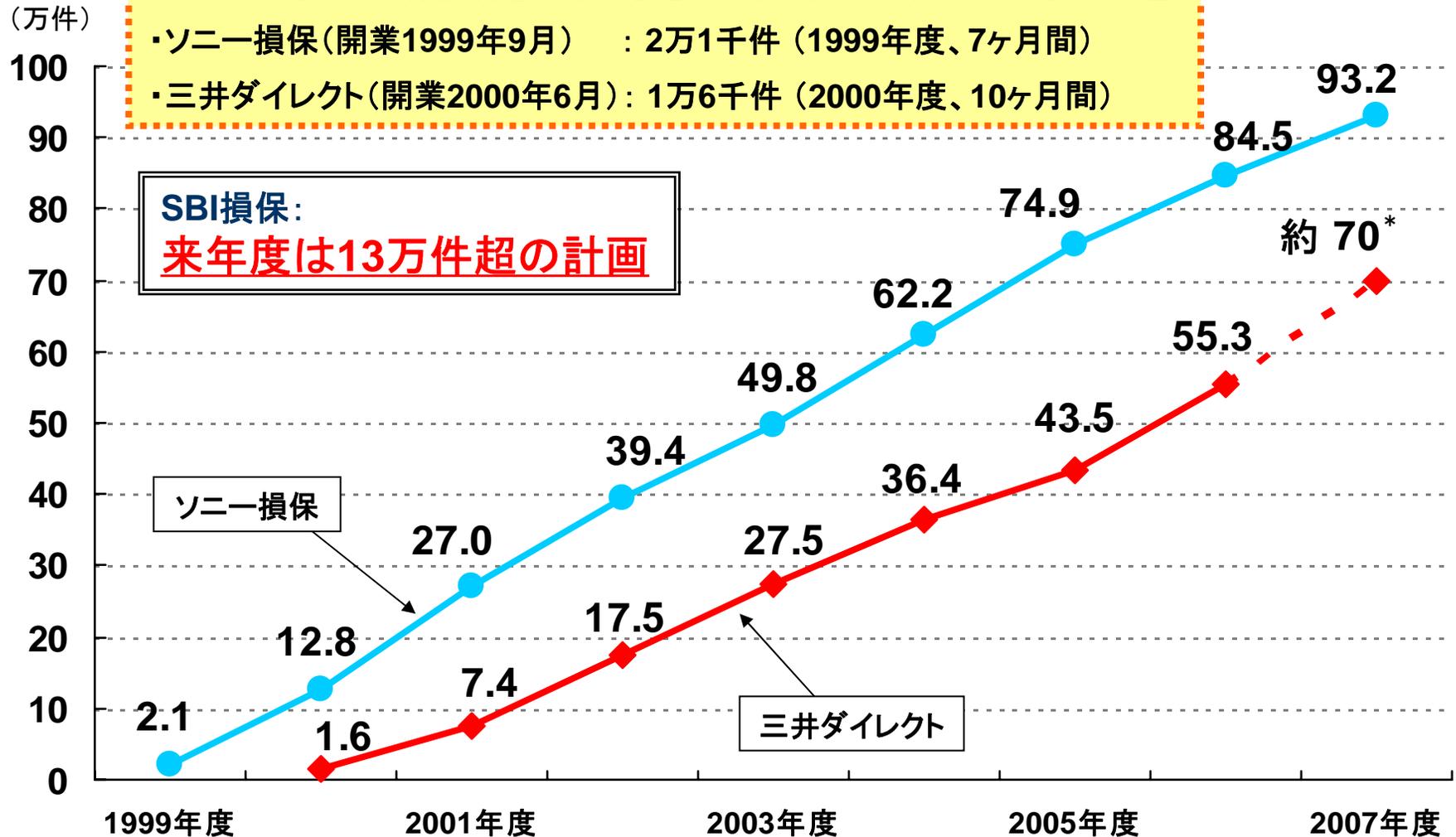
保険始期日：平成20年12月1日 車名：マークX
 型式：GRX121 料率クラス：車両5 対人5 対物5 傷害4
 居住地：東京都 性別：男性 走行距離：年間2,000km
 初度登録：平成19年10月 運転者範囲：限定なし
 ノンフリート等級：17等級 免許証の色：ゴールド
 使用目的：日常・レジャー 年齢条件：26歳以上補償
 対人：無制限 対物：無制限 人傷：5,000万 搭傷：500万
 車両：一般290万(免責0-10万) 割増引：新車割引・
 盗難防止装置割引・インターネット割引・証券不発行割引

※SBI損保と比較の対象としているダイレクト系A社、B社、C社及び代理店系D社との契約条件、補償内容等は同一もしくは近似の内容であり、必ずしも一致しない場合があります。
 ※記載の保険料は2008年10月24日のものであり、保険料率の改定等により変更となる場合があります。また、契約の条件等によって、保険料は異なります。

主要ダイレクト損保の創業時の件数比較

営業開始以来の契約件数推移

- ・SBI損保（開業2008年1月16日）：2万5千件（～09/1/16）
⇒08年3月27日、保険料を大幅に引き下げ。以降成約件数の伸びが加速
- ・ソニー損保（開業1999年9月）：2万1千件（1999年度、7ヶ月間）
- ・三井ダイレクト（開業2000年6月）：1万6千件（2000年度、10ヶ月間）



* 三井ダイレクト社の2007年度契約件数は当社推計値

主要ダイレクト損保との創業時の業績比較

■ ソニー損保（開業1999年9月）

| （単位：百万円） | 1999年度 | 2000年度 | 2001年度 |
|------------|--------|--------|--------|
| 経常収益 | 1,316 | 7,600 | 16,488 |
| 保険引受費用 | 1,709 | 7,019 | 12,910 |
| 営業費及び一般管理費 | 5,502 | 9,297 | 9,486 |
| 経常利益 | ▲3,430 | ▲5,641 | ▲4,097 |

■ 三井ダイレクト（開業2000年6月）

| （単位：百万円） | 2000年度 | 2001年度 | 2002年度 |
|------------|--------|--------|--------|
| 経常収益 | 892 | 3,758 | 8,301 |
| 保険引受費用 | 997 | 3,413 | 6,834 |
| 営業費及び一般管理費 | 3,497 | 4,352 | 5,349 |
| 経常利益 | ▲763 | ▲908 | ▲1,431 |

■ SBI損保（開業2008年1月）(*)

| （単位：百万円） | 2007年度 | 2008年度(計画) | 2009年度(計画) |
|------------|--------|------------|------------|
| 経常収益 | 7 | 1,524 | 4,886 |
| 保険引受費用 | 15 | 1,611 | 4,370 |
| 営業費及び一般管理費 | 508 | 1,384 | 2,017 |
| 経常利益 | ▲335 | ▲261 | ▲362 |

開業2年目の
契約件数1件あたり
コスト比較(※)
(単位：万円)

ソニー損保 : 7.2
三井D : 5.8
SBI損保 : 3.9

(※) 契約件数1件あたりコストは、各社開業2年目の年度の営業費及び一般管理費を件数で単純に割ったものであり、1件あたりの獲得コストではありません。尚、SBI損保の数字は計画の数字です。

(*) 2007年度は開業後3ヶ月間の数字です。2008年度と2009年度の計画はあくまでSBI損保が独自で試算した業績目標数値です。また、当該計画には再保険による拠出分を考慮しておりませんので 今後開示される実際の業績数値と大きく乖離する可能性があります。

本格稼動しつつあるSBI損保

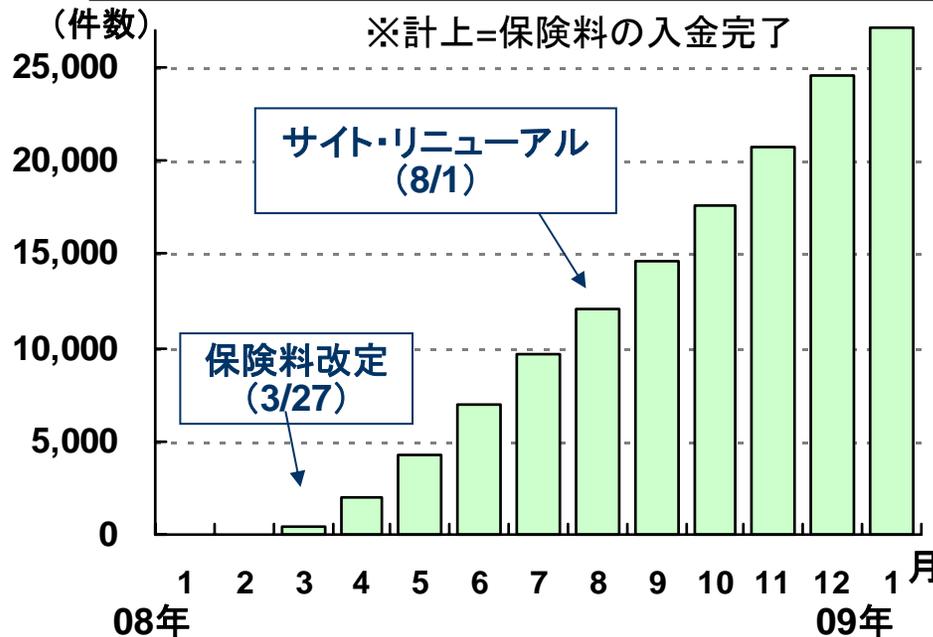


現在の状況

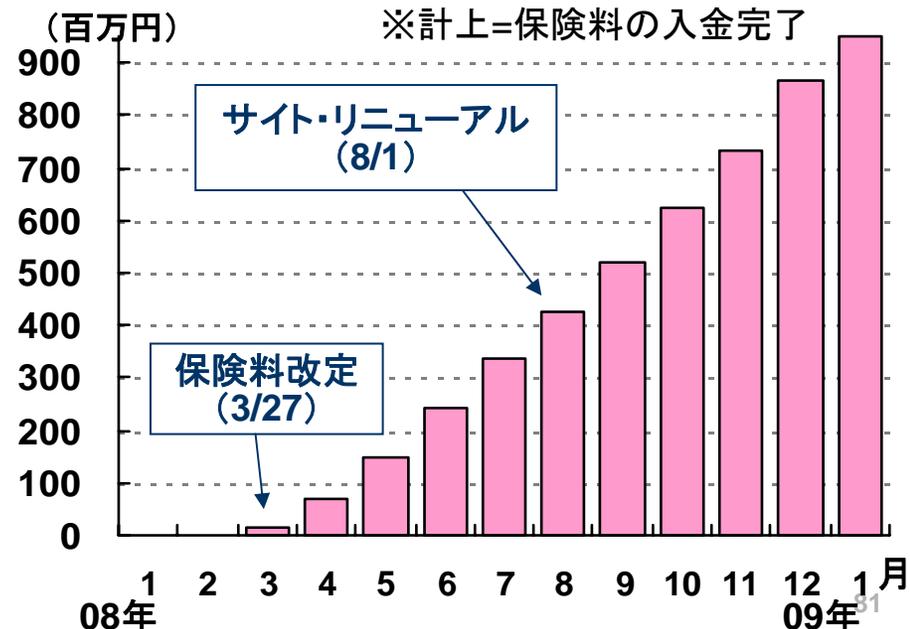
- 2008年10月、携帯電話のGPS機能を利用した位置情報通知サービス「**SBI損保GPSナビ**」開始。
- 2009年1月、1日あたりの契約件数が**過去最多(195件)**を更新。
- 1月27日現在、**累計契約件数は2万7千件超、累計収入保険料は950百万円**
(共に計上ベース)。

SBI損保の契約者は、30～40歳代に加え、**50～60歳代の顧客も増加傾向**
⇒定年などを機に、勤務先で加入した保険を見直す熟年層が増えていると予測される

自動車保険 契約数(計上ベース)・累計

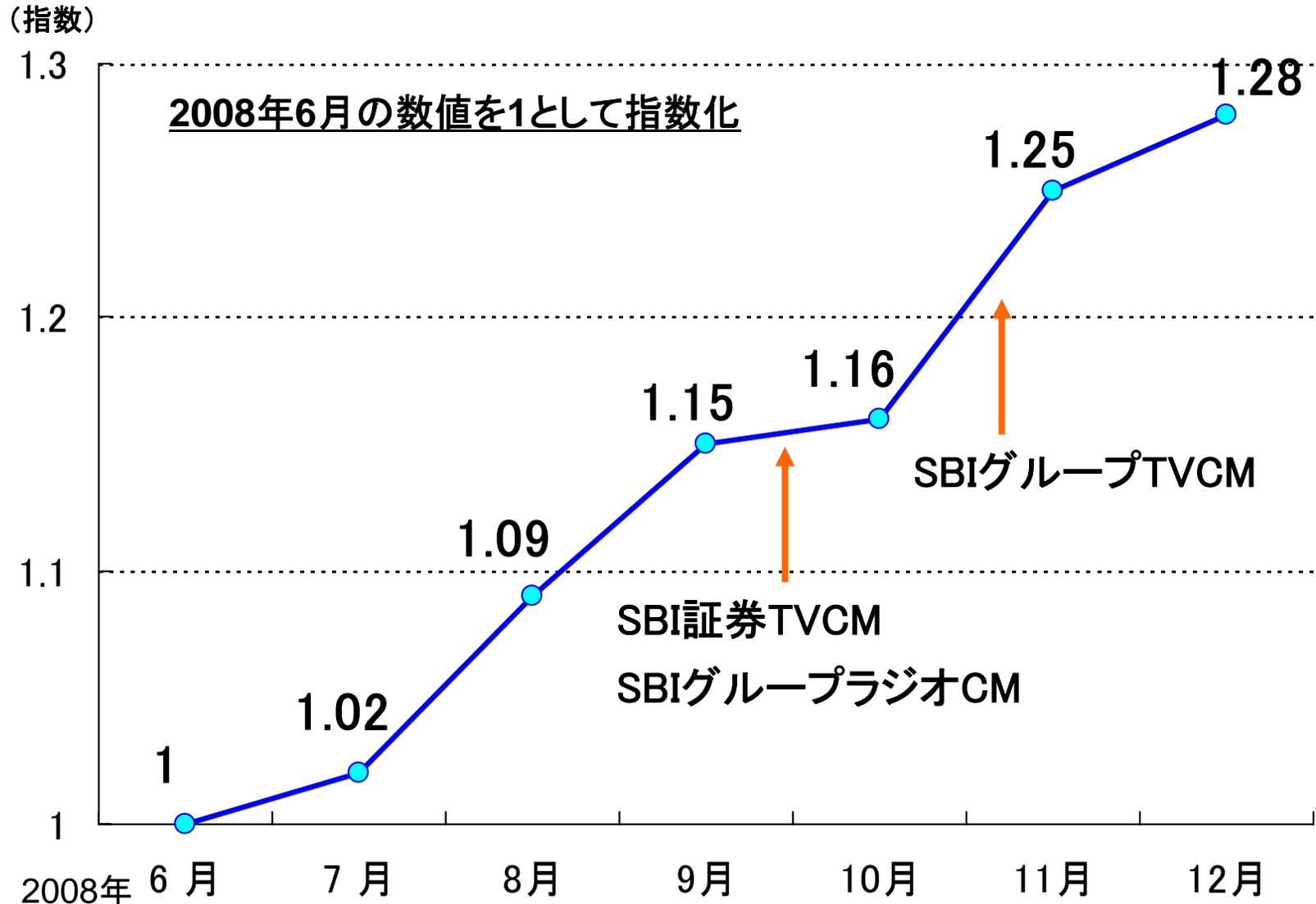


元受収入保険料(計上ベース)・累計



SBI損保 コンバージョンレートの推移

(コンバージョンレート=成約件数÷見積り件数)



さらに収入保険料3倍増を目指して①

「SBIオートサポート」によるリアルへの取り組み本格化

・営業開始当初: **SBI損保の自動車保険**の契約獲得を目指す!



30%



70%

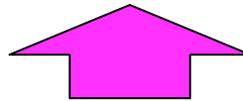


- ・オークション会場運営ノウハウ(国内3ヶ所運営)
- ・会員企業: 14,000社以上
- ・年間総出品台数: 約70万台

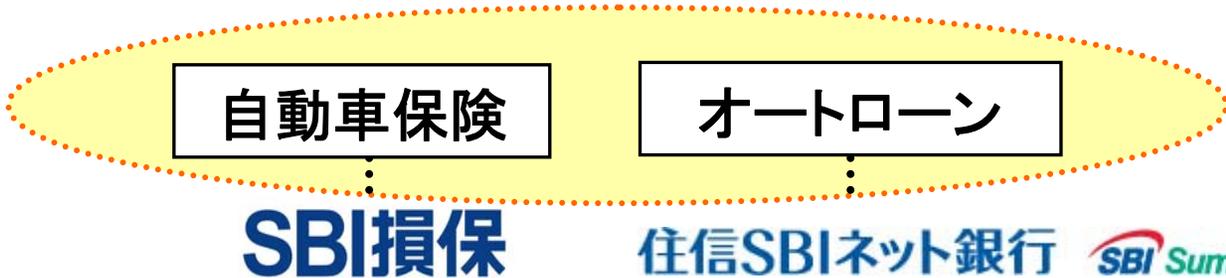
SBIオートサポート

中古車販売業者を通じた購入者への金融サービス提供を支援

- 【自動車関連金融商品】
- ・**自動車保険**(SBI損保)
 - ・**オートローン**(準備中)
(住信SBIネット銀行)



・今後: **SBIグループの総合力を発揮する**ことで、飛躍的な登録社数の増加を目指す!!



さらに収入保険料3倍増を目指して②

SBIオートサポートの**中古車販売業者登録数は既に884社(*)**、
今後も月間100社程度の登録を見込む

(*)2009/1/27現在

SBI損保

★ 2009年1月下旬
スタート予定



- カートレードファイナンス
- ・会員販売事業者:345社
- ・提携中古車オークション会場:35会場

SBIオートサポート(株)

2008/10/14 営業開始

★ 2009年1月
スタート

(株)オートサーバー

- 中古車ネットオークション代行
- ・登録ディーラー:約32,000社



★ 2008年10月スタート

JAA 中古車オークション会場
・参加ディーラー:14,000社超

【SBIアクサ生命保険】

開業時の事業計画 (2008年4月7日開業)

- ・目標契約件数 初年度:約2万件、5期目:約20万件
- ・目標収益 5期目:単年度黒字化

生命保険料の引き下げとユーザビリティの向上による 獲得契約件数の増加

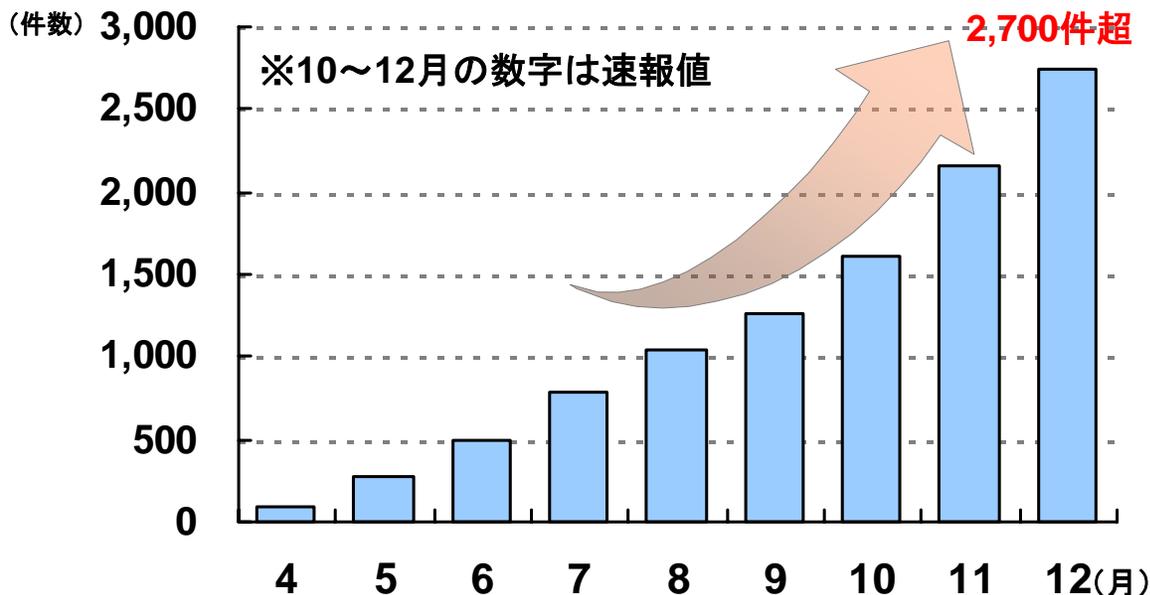
10/2~

従来より業界最低水準の保険料で提供してきた「カチッと定期」(定期保険)において、高額割引制度を導入。
=>従来と比較して**最大46.6%の割引**(※1)

11/14~

保険業界初(※2)、Webサイト上で口座振替の手続きが完結する「web口座振替受付サービス」開始。
=>従来の書面記入や捺印、送付手続きが不要に

定期・医療保険(合計)の新規契約成立件数・累計



新規商品の拡充:

⇒年度内に新商品の販売開始を目標(※3)

- ※1 保険金額2千万円以上の契約が対象
- ※2 当社調べ
- ※3 当局からの認可の取得が前提となります

ネットとリアルとの融合によるチャネルの拡大

インターネット経由の生命保険加入は、今後増加が見込まれるが同時に他チャネルも拡大することによって、さらなる新契約の獲得を目指す。

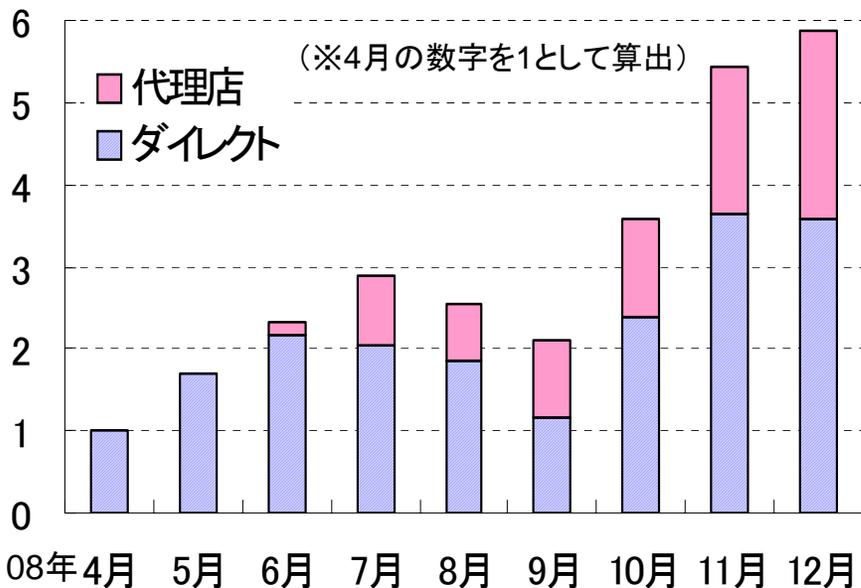
6月 従来のダイレクト販売に加えて募集代理店での商品販売を開始

12月末現在・取り扱い募集代理店：合計36社

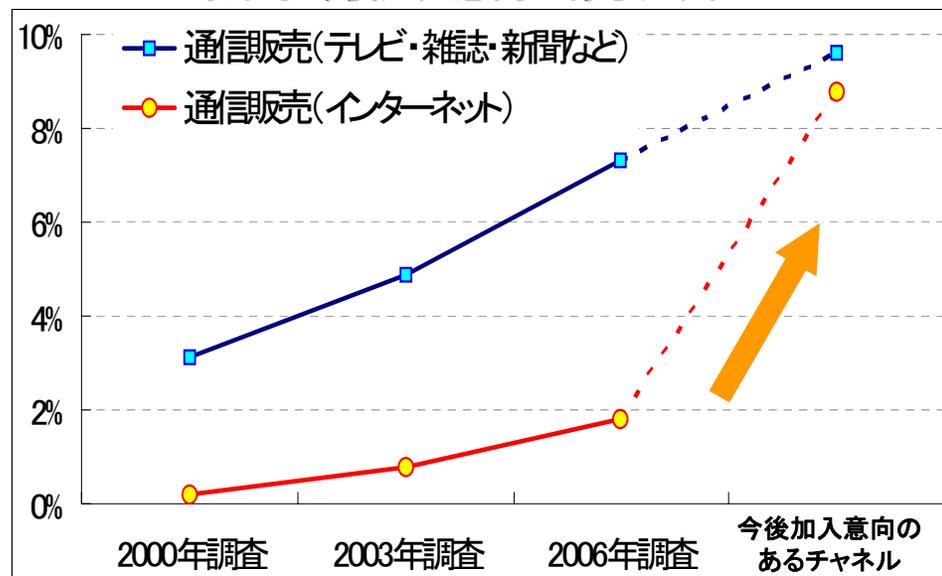
10月 募集代理店での店頭窓口における試験販売を開始（全63店舗）

11月27日～ 住信SBIネット銀行においても商品の取扱いを開始

チャネル別 月次新契約件数 推移



直近加入契約(民間生命保険)の加入チャネルのシェア
および今後加入意向のあるチャネル



※2000年調査は1995～2000年、2003年調査は1998～2003年、2006年調査は2001～2006年に加入。今後加入意向のあるチャネルは2007年度の調査結果より。(資料:生命保険文化センター)

『 SBIグループCMの実施 』

経済・金融に詳しくなかった人々にも、「SBI」3文字の認知を拡げる

テレビCM

- '08年10月1日～31日:「SBIイー・トレード証券」から「SBI証券」への商号変更告知
- 11月4日～:「SBIって何？」篇
- '09年1月17日～:「方程式」篇
- 2月～:「方程式」篇&「シナジー効果」篇

ラジオCM

- '08年10月1日～: SBIグループ各社の社名・サービスを紹介

～「SBI」ブランドの浸透へ～ テレビCMの展開①

SBIグループの特徴を様々な手法でご紹介

「方程式」篇

(1月17日より開始)



SBIグループには方程式がある。

女性: パソコン + ケータイ × 便利 + SBI =
男性: ネット銀行!



女性: 安心 × 安心 - ムダ + SBI =
男性: ネット保険!



女性: お金 × お金 × 明るい未来 + SBI =
男性: ネット証券!

(S)すべてに (B)便利が (I)いっぱい!
SBI♪

～「SBI」ブランドの浸透へ～ テレビCMの展開②

「シナジー効果」篇

(2月より開始)



SBIグループは、ネット銀行、ネット証券、ネット生保、ネット損保を中心とした総合金融グループです。



私たちの最大の強みは、様々な金融事業が、互いに作用し合うことで生み出される、シナジー効果。

すべては 消費者のために、
投資家のために、そして、
すべての人々のために。



私たちは、SBIグループです。

【SBIファイナンスポータル】

(2009年 1月開設)

金融ポータルサイト「SBIファイナンスポータル」開設

証券・銀行・保険など金融サービスのワンストップ提供の
実現に向け、1月13日より実験的にスタート

ネット証券

SBI証券

ネット銀行・住宅ローン

住信SBIネット銀行

SBI Sumishin Net Bank

住宅ローン

SBI Mortgage

ネット損保(自動車保険)

SBI損保

ネット生保(生命保険・医療保険)

SBI アクサ生命

クレジットカード

SBI Card

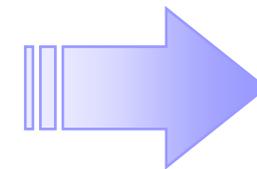
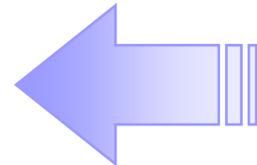
…等々

SBIファイナンスポータル

～改善・改良を重ね、
順次機能を拡充～

グループとして
初採用

インターネットを
利用してサービス
を提供



外部にデータ
センターを構築

※物理制限によらない、
サーバー台数の増加、
柔軟な増減などが可能

クラウドコンピューティングシステム

サービス事業者(プロバイダー)

② バイオ関連事業

【SBIバイオテック】

SBIバイオテックが創薬事業への進出を本格化

米国、中国、韓国の有力な製薬会社やバイオベンチャー企業との契約を締結



•10月、韓国のバイオベンチャー企業のヘリクシール社(Helixir)とサルナシ抽出エキスPG102を開発・販売するライセンス契約を締結。

•**本年2月中に、PG102を健康食品として発売予定**。アトピー性皮膚炎や花粉症、鼻炎、喘息、食品アレルギー等アレルギー性疾患への適応が期待できる。



•10月、中国バイオテック企業の長春華普生物技術有限公司(Changchun Huapu Biotechnology)と3種類の核酸医薬の新薬候補導入の契約締結をリリース。がんや自己免疫疾患等の治療薬を目指して開発を進め、適応症に応じて日・米・中で臨床試験予定。



•10月、米国のベイラー研究所(Baylor Research Institute)と樹状細胞療法に関するライセンス契約締結をリリース、日本を含むアジア地域での権利を取得。がん細胞を攻撃する樹状細胞療法について共同研究に取り組む。



•9月、英製薬大手アストラゼネカの米国バイオ子会社・メドイミュン(MedImmune)と抗ILT-7抗体に関するライセンス契約を締結、開発販売権を供与。今後メドイミュンは米国での臨床試験に取り組み、関節リウマチなどの自己免疫疾患の治療薬として開発へ。

【SBIアラプロモ】

～2008年12月に第1弾の商品を実用化～

2009年1月25日(日)TBS系列「夢の扉～NEXT DOOR～」にて、SBIアラプロモ取締役、田中徹の密着取材が放送されました。

SBIアラプロモでの商品開発等の進捗状況

コスモ石油と共同で「5-アミノレブリン酸」(5-ALA)の開発及び、
関連製品の市場拡大を図ることを目的として、2008年5月27日合弁契約を締結

「5-ALA」は、脳腫瘍の術中診断や癌のスクリーニング、貧血予防、
肌荒れやアトピー対策など、多様な用途が期待されている。



2008年11月、都内に研究拠点を設立

<研究開発 進捗状況>

- ◆ **化粧品**: 2008年12月に第一弾商品、ハンドクリーム「はたらくて」を実験販売開始。今年中に第二弾商品へと拡充予定。
- ◆ **治療薬**: 共同開発のため、今年度内に海外企業との合弁会社設立予定。
- ◆ **診断薬**: 国内複数企業と提携交渉中。
- ◆ **健康食品**: 特定保健用食品の許可取得に向け、臨床試験継続中。

【バイオ関連出資先】

今後収益が期待されるバイオ関連出資先企業

クオーク・ファーマシューティカルズ社 (SBIグループ出資比率: 24.87%)

- RNA干渉(RNAi)をベースとした新薬の開発
- 2006年9月に米国ファイザー社と加齢黄斑変性症を対象疾患とする合成分子(PF-4523655)に関するライセンス契約を締結した。ファイザーから支払われるライセンス料は600百万ドルを超える規模となる。
- 2008年7月に糖尿病性黄斑浮腫に対象拡大し、ライセンス料を受領した。開発ステージはフェーズⅡ試験へ前進。
- 2008年10月に、ジョンズ・ホプキンス大学医学部ビスウエル教授との共同研究である、siRNAが非小細胞肺癌関連遺伝子の成長を抑制に有効であることを示す論文をCancer Research誌に同社が発表した。新しい抗がん剤として利用できる可能性。
- 2008年11月、SBIH取締役執行役員の松井一幸が同社役員に就任。
- New!** • 2009年1月、RNA干渉を用いた医薬品候補「QPI-1002」の臨床試験において患者への投与を開始。適用は腎臓移植後の臓器拒絶予防。同分野では先行薬は存在しない。
- 株式市場への新規上場のみならず、国内外大手製薬会社へのM&AによるExitも検討中。

アキュセラ社 (SBIグループ出資比率: 26.34%)

- 眼科疾患の新薬開発
- 2008年9月に大塚製薬とドライ型加齢黄斑変性症を対象疾患とする化合物の導出とドライアイを対象疾患とする点眼薬に関する共同開発契約を締結した。大塚製薬から支払われるライセンス料は最大で258百万ドルとなる。
- 米国NASDAQを含めた新興市場への新規上場を検討中。

(株式関連)

直近に提出された外国人投資家による SBIホールディングス株式の大量保有報告書の状況

| 提出者 (共同保有者名) | | 報告義務 発生日 | 保有株式数 (総数) | 発行済株式総数に 対する保有株式数の 割合 (%) |
|---------------------|---|-----------------|---------------|---------------------------------|
| 米国 キャピタル グループ | キャピタル・ガーディアン・トラスト・カンパニー キャピタル・インターナショナル・リミテッド キャピタル・インターナショナル・インク キャピタル・インターナショナル・エス・エイ キャピタル・インターナショナル株式会社 | 2008年 8月29日 | 1,201,929 | <u>7.17</u> |
| 英国 オービス グループ | オービス・インベストメント・マネジメント・ (ビー・ヴィー・アイ)・リミテッド オービス・インベストメント・マネジメント・ リミテッド | 2008年 11月19日 | 2,031,092 | 12.12 |
| | | 2008年 12月12日 | 2,215,558 | 13.22 |
| | | 2009年 1月15日 | 2,407,482 | <u>14.36</u> |

(注) 保有株式数及び発行済み株式総数に対する保有株式数の割合は報告義務発生日時点のものです。

<http://www.sbigroup.co.jp>